

2006-2007
DISTRICT 336-A



ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区誌

We Serve

*The International Association
of Lions Clubs*



10.11.12

No.2

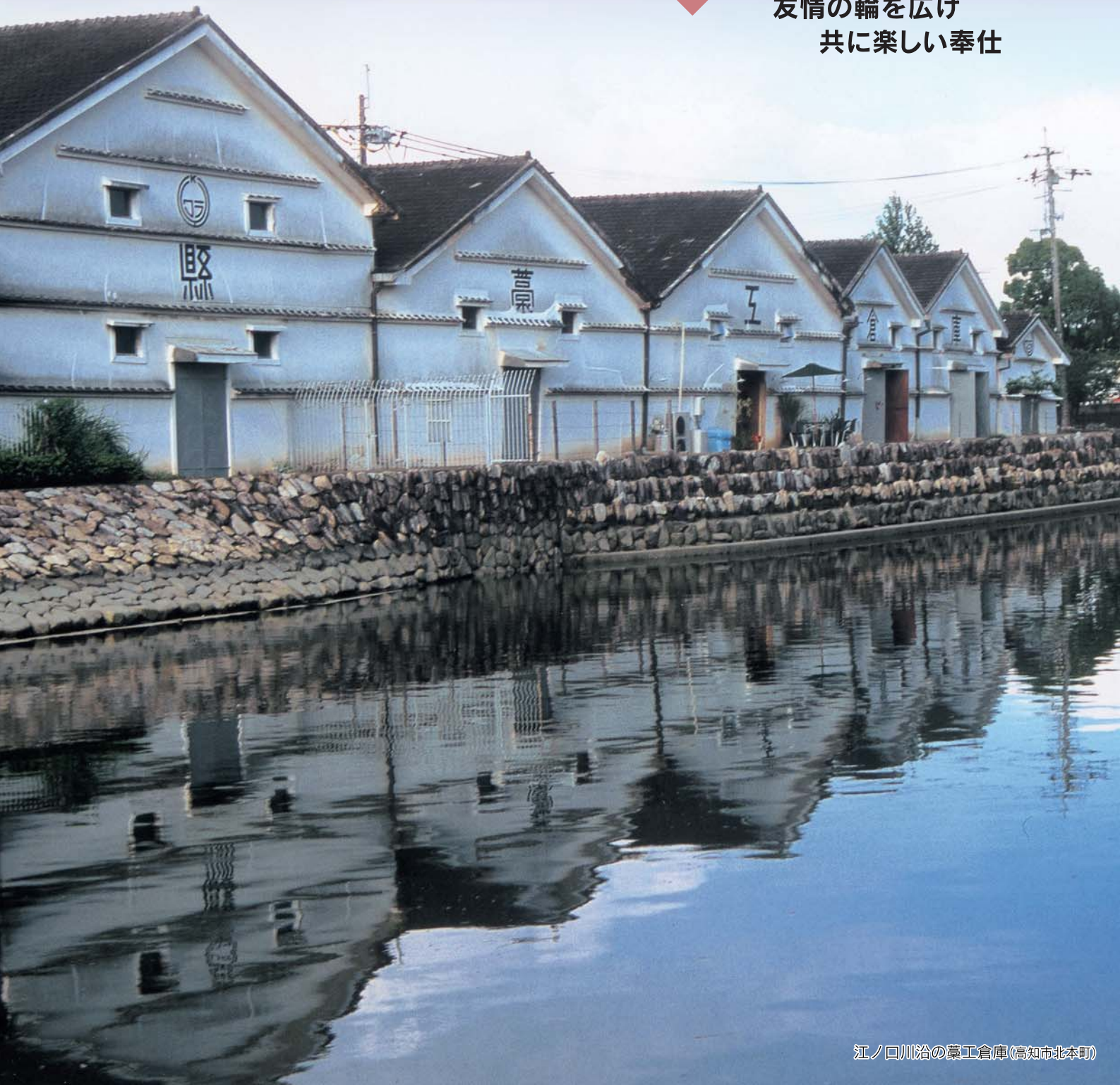
2006. 第56巻

平成18年12月1日発行

●地区ガバナーズ・スローガン

友情の輪を広げ

共に楽しい奉仕





2Rの公式訪問で挨拶をする西園寺ガバナー



西の玄関
「みかんと魚の町」
八幡浜を表したバナナ

実り多き「マン」の出会い

友情の輪さらさら広きく!

おお

猛暑の四国路一周

2006-2007年度

ガバナー公式訪問終える

「皆さん、ライオンズは楽しいですか？」こんな第一声が始まる西園寺純一地区ガバナーの公式訪問は梅雨が明け、真夏に一変した7月29日2リジョンからスタートした。

西園寺ガバナーは、すでに昨年西原透ガバナーの公式訪問に随行し、336-A地区の各リジョンを隈なく廻り、クラブのリーダーと交流があり、各リジョンでの公式訪問は、実にスムーズに運んだ。特にガバナーは気負いのない庶民的な言葉で、昨年度今年度と二年間の質問資料を基に、そのクラブの動静を問い、木目の細かい指導を行いながら、猛暑について四国路を一周、9月10日の1リ

ガバナー公式訪問中高松市の番外札所「香西寺」を参拝して公式訪問の成功と道中の安全を祈願する三役





336-A地区ガバナー 西園寺純一

「光陰矢の如し」の諺の通り、早4ヶ月が過ぎようとしております。会員の皆様のご協力で、公式訪問の終了後例会訪問、周年行事への参加など、多くの会員の意見を聞くことができました。感謝しております。

今年は、RCやZCの皆さんと情報交換をする時間をもちたいと思っております。7月22日、RCとの第一回目の交流会を行いました。特別の議題を作って討論するよりも、お互い現状を話すうちに心に残る発言が出るもの

です。一生懸命考え、悩んでいると、雑談の中から大きなヒントを得ることが出来ます。お互い真剣にクラブ運営を考えている者同志、すべて無駄な発言などありません。LCのこと以外にも、お互いの人生への大きなヒントも発見できると思えます。

8月29日、4R、8R、9月29日には5R、7RのRC、ZCの皆さんと、それぞれ高知市、徳島市で交流会を持つことができました。

色々の発見があり参考になりました。これから具体化して行くつもりです。クラブに一番近いZCの意見が、一番重要な情報やアイディアの発見になると信じております。これからは時間の許す限り各クラブを訪問し、一人でも多勢の会員の皆さんと出会い、話し合いの中から仲間づくり、活性化につなげてゆきたいと思っております。

ジミー・ロス国際会長は新会員のアイディアやパワーで、又5万人の女性会員増強と頑張り、クラブの活性化を図りたいと言っておられます。9月末時点で191名の入会がありながら、その反面、死亡を含め153名の退会者を出していることは残念でなりません。退会者の40%~50%くらいが、入会后3~4年であるといわれています。クラブにとっても退会者にとっても大きな損失です。

楽しい仲間づくりで、友情の輪を広げて、LCライフを楽しもう!!



INDEX

表紙2	ガバナー公式訪問
11	ジミー・M・ロス国際会長公式訪問
12	CSF II 特集
14	LCだより/表紙写真説明
15	思い出の木植樹
16	YE特集サマーキャンプ
20	YE特集ホームステイ
24	同名交流 高松葵LC
25	同名交流 松山南LC
26	同名交流 伊予吉田LC
	同盟交流 高松源平LC
27	同盟交流 保内LC
28	同名交流 八幡浜みなとLC
	クラブ結成20周年記念式典 上板LC
29	ライオンズクエスト 高知とさみずきLC
30	特別寄稿・四国の偉人 小男の大きな光芒 画人・河田小龍
32	336-A地区会員現況
表紙3	物故会員・編集後記



ソフトな口調で常に木目の細かい指導を行う



最後の公式訪問1Rの懇親会場で

ジョンを最後に、すべてのクラブの公式訪問を終え、その任務を完了した。

西園寺ガバナーは、地区ガバナー公式訪問において、各クラブ会長との質疑応答中、常に笑顔絶やさずことなく、しかも壇上で終始立ったままの姿勢で対応するなど、その真摯な態度は各リジョンの役員から好感を得て、ガバナーと会員の距離を埋め、さらに友情の輪を広める事が出来た。

2006
|
2007

ガバナー公式訪問

2 REGION

日時 ■ 7月29日(土)午後1時30分より
場所 ■ 西条市JA西条会館「はなゆい」
ホストクラブ ■ 西条ライオンズクラブ

仲間づくりが、楽しい ライオンズライフの出発点

長かった梅雨も漸く明け、一度に真夏の幕開けとなった7月29日、最初の地区ガバナー公式訪問は、2リジョン西条ライオンズクラブのホストで、JA西条会館「はなゆい」で開催された。先ず加藤茂リジョン・チェアパーソンの案内で西園寺純一ガバナーを先頭に山口和哉幹事・兵頭修会計三役に続き三谷智省副地区ガバナーが入場。2リジョン18クラブから集まった5役の役員から、大きな拍手で迎えられ、会が始められた。

西条ライオンズ加藤誠也会長の挨拶に続き、加藤茂リジョン・チェアパーソンの歓迎の言葉の後、前ガバナー西原透地区名誉顧問会議長が登壇し、二年間にわたり開いていたキャビネット事務局を、昨日閉じた事を報告し、昨年一年間ガバナー一任期中のお礼を述べた。引き続き、西園寺新ガバナーに対して一層の支援を会員にお願いした。続いて西園寺ガバナーが挨拶に立ち、去る6月26日より4日間、アメリカのボストン市でガバナーエレクトセミナーが行われ、日本全国から集まった33名の仲間と共に、ガバナーとなる心構えを学び、7月4日の閉会式に於いてガバナー就任式があり、晴れて3361A地区ガバナーとしての第一歩を踏み出した事を告げた。ジミー・M・ロス会長の「われわれは奉仕する」の7つの項目の提言を伝えた後に、ガバナー自身の所信と運営基本方針・委員会活動方針について、自分の考えを会員に熱く語った。



懇親会で各名誉顧問より激励をうけるガバナー

青い空と、みかん山を描いた記念品のバナーを各クラブの会長に贈られた。各委員会から委員長が挨拶をかねて要望やお願いをのべた。いよいよ本題に入り各クラブ会長が今年度の目標と抱負について、ガバナーと意見を交換する時間となり、進行のマイクは山口和哉キャビネット幹事に手わたされた。

西園寺ガバナーは、18クラブから出された質問書に対し、昨年度の活動状況も照らし合わせ、核心をついた木目の細かい指導と適切なアドバイスをされた。歯切れの良い山口幹事の進行で、会はスムーズに運び予定時間内で終了した。



意見交換する会場風景

小松武道元地区ガバナー・地区名誉顧問に講評をいただき、無事ガバナー公式訪問を終えた。

休憩の後、席を3階の懇親会場に移し、高岡祐三元地区ガバナー名誉顧問の乾杯の発声で、一度に緊張がとけ、一同なごやかに酒を酌み交わし、西園寺ガバナーの門出を祝った。

日時 ■ 7月30日(日)午後1時より
会場 ■ 宇和島市丸之内サブライムホール
ホストクラブ ■ 宇和島ライオンズクラブ

29年ぶり、6Rからガバナー誕生

6リジョンの地区ガバナー公式訪問は、2リジョンに続き翌30日、宇和島市の宇和島ライオンズのホストで開催された。

司会の沖原義光3ZCの案内で地区役員入場、出席した16クラブ78名の役員の大きな拍手で迎えられ、横濱雄幸6RCの力強い歓迎の挨拶があった。地区ガバナー

激励のことばでは、宮内浩四郎名誉顧問は特に、6リジョンからガバナーが誕生した事を喜び、ここ宇和島の上田生城ガバナー誕生以来、実に29年ぶりの快挙であり、西園寺ガバナーの勇氣と情熱を称えた。この一年間6リジョン地区役員・会員一丸となってガバナーを支え、運営基本方針に沿って活動してほしいと、西園寺ガバナーに惜しみないエールを送った。

挨拶に立った西園寺ガバナーは、ジミー・M・ロス国際会長が、人口四三二人の小さな町のクラブ出身で、会長自身カウボーイであるため、カウボーイに誇りを持ち、常にカウボーイハットを被り、「カウボーイが牛の焼き印に忠誠を誓う」様に、我々会員はライオンマークに誇りを持つと、ライオンズの高揚の大切さを説かれた。

西園寺ガバナーは時折り、「皆さん、ライオンズは楽しいですか」と会員に問いかけ、楽しくなければライオンズではない、と自論を展開され、特に新しく作ったアワードについての説明と、入会した以上はライオンズに「楽しい思い出を残そう」と会員に強く語りかけられた。

回答書による各クラブ会長とガバナーとの質疑応答の時間は、ホームグラウンドである事から、ガバナーも一段と肩の力が抜け、各会長とは終始家族的なムードの会話で進行された。6リジョン共通のクラブの悩みは会員増強にある。出席率を高め、退会者を防ぎ、楽しいライオンズにするため委員会活動を活発に行い、趣味の会などを作る事を提案された。山梨県の南アルプスライオンズクラブは、会員154名のマンモスクラブだが、趣味の会が18もあり、常に例会出席率は91%を保っている。仲間づくりが楽しいライオンズライフの出発点である事を力説された。



ガバナーより贈られた記念品のバナーを受けた各クラブの会長さん



ガバナーの質問に答える各クラブの会長さん

3R REGION

日時 ■ 8月5日(土)午前9時より/午後3時より
 場所 ■ 木田郡三木町ウエルサンピアさぬき
 ホストクラブ ■ 1Z高松葵ライオンズクラブ 2Z高松源平ライオンズクラブ
 3Z大川郡ライオンズクラブ 3Z長尾ライオンズクラブ
 4Z高松玉藻ライオンズクラブ

若獅子育つ肥沃な讃岐平野

前日高松入りして、会場である木田郡三木町の郊外に位置する「ウエルサンピアさぬき」に宿泊する。夏山の讃岐山脈を一望できる最高のロケーションに建つホテルである。夕刻、長尾ライオンズクラブの例会訪問に、西園寺ガバナー・山口幹事・兵頭会計と芝憲司キャビネット副幹事が出席した。3Rは最もクラブ数の多いリジョンのため、午前と午後の二回に分けて公式訪問を行った。3・4ゾーンは早朝9時より開会。阿部信行3RCが「玉藻よし讃岐の国は国からか見れども飽かぬ神からか」と、万葉の歌人柿本人麻呂が讃岐の風土を称えた歌を披露し、「猛暑の中を遠路高松までご苦労さまです」と歓迎の挨拶があった。「大師のふるさと讃岐によろこそ」と石川俊夫地区名誉顧問(常任)よりガバナーへ激励のメールが送られた。

昨日長尾LCの例会に訪問していたから、会場は早朝にかかわらず袴が取れ、活々とした明るいムードに満ち、ガバナーの意向がよく伝わったようであった。鶴居健会長の、長尾LCは71名の会員数を誇るが平均年齢も68歳と高く、病気に悩む会員が増加傾向にある。活性化の原点は、会員の家庭健康維持の向上にある。今年度の運営方針の目玉は、一日、一万歩運動と禁煙運動を奨励している。また遍路道の周辺に桜の植樹を行い、新しい桜の名所を造る事業計画を発表。2003年結成の高松空港LC、2004年結成高松グリーンLCなど最も新しいクラブであるが、YE生を受け入れるなど、活動意識が強い。43才と最も若い高松北LCの丸山勉史会長に至っては、今年10名の新入会員を入会さす予定であると、頼しい報告もあった。

午後1・2Zの会でも、2002年結成の高松中央LCは神内つる恵会長率いる女性クラブや昨年結成した山瀬邦生会長の高松愛LCなど、大師生誕の地だけあり、何れもカラフルで、パワーに溢れた3Rである。

地区ガバナー質問事項で、高松屋島LC小島保紀会長と八栗LC日下吉文会長から3R分割問題についての質問があり、西園寺ガバナーも、「この問題は毎回持ち上がる問題で、慎重に時間をかけて検討したい。」と言うに止まった。

懇親会も午前の部と午後の部と二回セットされ、久米一郎地区名誉顧問の乾杯の発声で懇親会が始まった。役員一同長かった一日の疲れをねぎらった。



地区名誉顧問(常任)石川俊夫の挨拶



ガバナーより記念品のバナーが贈られる



各クラブの会長より熱心な質問が続く...

OREGON

日時 ■ 8月6日(日)午後1時20分より
場所 ■ 丸亀市オークラホテル丸亀
ホストクラブ ■ 丸亀ライオンズクラブ

女性会員をふやしてもっと楽しい例会を

6日朝、オークラホテル高松を発ち、この日の会場丸亀に向う。途中、兵頭会計の希望で高松市香西町の19番番外札所、香西寺を訪ねる。信仰家の兵頭会計は、八十八ヶ所巡拝を終え、目下番外札所めぐりの途中である。それも四ヶ寺を残すのみ、その一ヶ寺が香西寺。「南無大師遍照金剛」一行は、無事に公式訪問を終る事と、道中の交通安全を祈った。

仲間づくりを目指して、炎天下の四国を一周する西園寺ガバナーも、現代のミニ大師といったところだろうか、納経帖を受け取り、一路丸亀に向かう。

海岸の突端に起立するモダンな「オークラホテル丸亀」左に丸亀競艇場を見下し、右に瀬戸大橋を望む素晴らしい景観に感激。13時20分開会のゴング、歓迎の挨拶を鈴木巖9RC、ガバナー激励の言葉を石川俊夫地区常任名譽顧問から頂く。

特に地元である山地章靖CSFⅡコーディネーターの挨拶には、事業一年目の結果と二年目の取り組みを紹介。モデルクラブは昨年12月31日に受付を終了していたが、期間中続けて行う事に変更になっ

た事などの報告がなされた。

9Rは11クラブで、最もクラブ数が少ないリジョンではあるが、ライオンズムの意識が高く、活動に熱心な地区である。

丸亀LCは会員一〇〇名の四国で一番会員の多いマンモスクラブであるが、何故か女性会員を入れない方針とか？丸亀京極LCでは女性会員が6名も居て「ゆかた例会」など行い、「もも」「ワイン」の同好会など、楽しいクラブ活動に女性が参加している。

ガバナーから、今年は国際会長が女性会員を五〇〇〇人増員を目指す大号令を発している、丸亀LC宮田章会長に、この件をよく検討して下さいと提言があった。谷口勝久会長の三豊LCスローガン「友情の輪が広がる、楽しい奉仕」は、奇しくもガバナーズスローガンに似ている。会長方針も「世の中、人間関係が一番、友情の輪が広がって親睦が深まり、そして楽しみながら奉仕する。この繰り返しが非常に大切。」この考えもまた西園寺ガバナーと同じである。すでに心はガバナーと一つに結ばれているようである。

何処かのクラブの会員から西園寺ガバナーの歌謡道楽について質問があった。ガバナーは、日本歌謡界の大御所、船村徹・星野哲郎・「豊予海峡」の大月みやこ等を、度々自宅に招くなどし、個人的に交流を重ねている。バンド等のグループを一回を招くと三五〇万円はかかる。六年間続けて、家が丁度一件建つ程の散財をした。こうして地域の人々と楽しい親睦の輪を広げて来た西園寺ガバナーの根底には、人々の心を掴む、船村・星野・演歌の大衆哲学がある。



山地章靖CSFⅡ地区コーディネーター



上着をとり質疑に答えるガバナー



答弁する坂出白峰LC 葛西会長



ガバナーから記念のバナーを贈られた各クラブの会長



鈴木巖9RCの挨拶

ORIENTATION

日時 ■ 8月26日(土)午後1時より
 場所 ■ 香南市一寿司会館
 ホストクラブ ■ 土佐香南ライオンズクラブ

クラブの活性化は委員会活動

8月26日きびしい残暑の残る高知の香南市において、8Rの地区ガバナー公式訪問が開催されました。

前日尾道市に泊まれ、忙しい予定を精力的にこなされている西園寺地区ガバナーは、キャビネット役員より先に高知入りされました。

公式訪問に先立ち、当市の月見山に記念植樹が開催され、また一つ新しい思い出が参加者に出来ました。

なごやかさと少し緊張の混ざった会場で、17名のキャビネット役員と16クラブ81名のライオンズメンバーが見守るなか、小松8RCの先導で西園寺地区ガバナーが三谷副地区ガバナー・山口キャビネット幹事・兵頭キャビネット会計を従えて、満面の笑顔で入場をされました。

盛大な拍手で会場が盛り上がり、溝淵1ZCの手馴れた司会で会は進行して行きます。

本日の公式訪問のお膳立てをして頂きました土佐香南ライオンズクラブ所属の小松義徳RCは、「歓迎のあいさつ」のなかで、「西園寺地区ガバナー、宮地健三元

地区ガバナー、地区常任名誉顧問…多数の皆様をお迎えすることが出来大きな喜びと緊張を感じております。…微力ではございますがこの一年間、地域のために誠心誠意ライオンズの高揚に尽くしたいと存じております。」と控えめながら心のこもった挨拶をされました。

宮地地区常任名誉顧問は、「これからガバナーや委員長さんからお示しになられる指導方針に従って、どうか一年後素晴らしい成果を挙げて下さい。」と16クラブの皆さんに語られました。

西園寺地区ガバナーは、ジミー・ロス国際会長の「われわれは奉仕する」の七つの項目について丁寧に説明され、「ウイ・サーブというライオンズの原点をもう一度見つめなおしてみよう」と提言されました。

山口キャビネット幹事、兵頭キャビネット会計、常設委員長より今年度の活動指針が説明され、休憩に入りました。各クラブ会長の今年度目標と抱負については、進行役の山口地区キャビネット幹事より、各会長さんの持ち時間はお一人5分と致しませ、また30秒前には、川添3ZCが旗を振

るとの説明がありました。1・2Zの会長さんが終わる頃には、大幅な時間オーバーで、3Zの会長さんのご協力で、何とか時間内に終了することが出来ました。

各クラブが沢山の事業を実施され、ガバナーにそれをお話したいと皆さん思われているのですが、それにしたら5分は少し短いと言われてもいたし方ないけど、全体では4時間30分は少し皆さんお疲れでしょう。

皆さんお待ちかねのガバナーを囲んでの懇親会は、他県より参加しているキャビネット役員の度肝を抜く、日本酒を大杯に注ぎ、一気に乾杯する高知流の恐ろしさ。しかし熱気を感じられる楽しい公式訪問でした。



宮地健三地区名誉顧問(常任)の挨拶



小松義徳8RCの挨拶



4 REGION

日時 ■ 8月27日(日)午後1時20分より
場所 ■ 土佐市ウエディングプラザ寿苑
ホストクラブ ■ 伊野ライオンズクラブ

文字通り胸襟を開き本音の意見交換

連日の猛暑の中、4Rの地区ガバナーの公式訪問が土佐ライオンズクラブの例会場でもあります。「ウエディングプラザ寿苑」に於いて開催されました。

4Rは高知市から足摺岬の近く土佐清水までの広範囲に17クラブが日々ライオンズ奉仕活動の輪を拡げて頂いています。前日の8Rの公式訪問後の宿泊地である高知市内からも近く、移動時間が少なくてすみました。

松本忠夫4RCが挨拶のなかでお話されましたが、クラブ相互の例会訪問はこの範囲ではさぞかし大変だろうと思われるます。

4Rの公式訪問は、西園寺ガバナー、三谷副地区ガバナー、キャビネット事務局、地区役員・委員総勢20名に、17クラブ70名の参加で開催されました。

松本忠夫4RCはご挨拶のなか、西園寺地区ガバナーをお迎えして公式訪問を開催できる喜びと、宮地健三元地区ガバナーのご出席に、ねぎらいと感謝の気持ちを、そして17クラブの会長・役員の皆様に対し、「この広範囲のなかで頑張っておられ

る17クラブの皆様が地区ガバナーと直接会話の出来るこの機会に、地域やクラブの諸問題をお話する場としてご利用して頂ければこの公式訪問がより意義のあるものとなるでしょう。」とお話されました。

橋本1ZCの進行で、西園寺地区ガバナーの所信表明並びに運営基本方針が丁寧に説明され「今年は建前でなく本音で語りましょう。」また、三谷副地区ガバナーはこの一年間お互いに頑張りました。」と皆さんを激励されました。公式訪問の記念品の贈呈、地区委員長からの要望事項と進行し休憩に入った。

休憩後、西園寺地区ガバナーは、17クラブの代表の皆さんにご了解を得て、背広の上着とネクタイをはずして、本音の意見交換に臨みました。

クラブ会長より本年度の活動方針の説明があったあと、ガバナーより、昨年度の公式訪問時の話も取り上げての、熱の入ったやり取りに大幅な時間オーバーとなり、昨日の8Rと同じく3Zの皆様が時間が少なくなり大変残念でした。

感じたのはクラブ会長も規定の時間に

収まるように事前に原稿を作るなり準備するべきであり、時間オーバーした時は、進行する側が制限をしないといけないだろう。

4Rのクラブの皆さんも青少年育成を中心に多くの事業を実施され、特に高知の土地柄でしょうか、女性会長さんや女性会員の頑張りには、見習うことが沢山あった公式訪問でした。



上着とネクタイをはずし本音の意見交換をする西園寺ガバナー



進行役の山口和哉キャビネット幹事



宮地健三地区名誉顧問の挨拶



松本忠夫4RCの歓迎の挨拶

LEAGUION

日時 ■ 9月2日(土)午後1時30分より
 場所 ■ 徳島市阿波観光ホテル
 ホストクラブ ■ 小松島ライオンズクラブ

「徳島」はガバナーのライオンズ活動原点

愛媛と徳島を結ぶ県境の長いトンネルを抜け、徳島自動車道を走ると、美馬平野の稲は色付き始めて、もう秋の気配が感じられた。八幡浜から徳島まで四国横断250キロ。会場は徳島駅前の阿波観光ホテル。今日の公式訪問は、全員ノーネクタイと取り決められ、岡田寿夫5RCの先導でガバナーが入場すると、全員起立し大きな拍手で迎えられた。

ガバナーの手柄を称えた岡田5RCの歓迎の挨拶。ガバナー激励の言葉をいただいた荒瀬孝之地区名誉顧問からキャビネット役員へ地元阿南市で作っているLEDミニライトキーホルダーのプレゼントがあった。

また岡田寿夫5RCの友人である京都大覚寺の門跡、松嶺庵主染筆の色紙も頂いた。

演壇に立った西園寺ガバナーは、「徳島は21年前にYEの委員として来た事があり、YEの年次大会など、一年半にわたり活動した思い出がある。昔馴染みのYEのOB会員も多くいる。私のライオンズ活動の原点・出発点は、ここ徳島であ

る。」と熱のこもった挨拶であった。ガバナーと各会長との要望事項、並びに質疑応答の時間は、大変すみやかに進行していった。

徳島吉野川LC山口裕史会長は、ゾーンにPRして10人新入会員を募る計画や、来年植樹計画があるので、河津桜の苗木をガバナーに依頼された。

徳島北LCは会員19名であるが、「会費は安く、出席率は高く」がモットー。純出席率70%、メークアップ後は91%と5RC中最も高いが、今後の目標を95%にするそうだ。ガバナーから、いっそ目標を100%に置いては、とアドバイスがある。懇親会も盛大に終えた後、ガバナーを始めキャビネット役員は、準備した二次会の寿司屋さんへ案内された。

その席で、「ガバナーが、大変身近に感じる」とガバナーの人間的魅力を評価する声があがった。酒を酌み交わし、仲間づくりはガバナーの最も得意とするところ、ガバナーも古巣へ戻ったように、ライオンズ談義に花を咲かせた。



岡田寿夫5RCの歓迎の挨拶



松本勤名誉顧問の挨拶



上着を脱ぎエネルギーに会に望むガバナー



岡田5RCから大覚寺門跡の色紙を贈られる。

7 REGION

日時 ■ 9月3日(日)午後1時30分より
場所 ■ 徳島市阿波観光ホテル
ホストクラブ ■ 阿波池田ライオンズクラブ

地域に根ざしたライオンズ活動

7Rの公式訪問も昨日と同じ阿波観光ホテルで、ノーネクタイで開会。歓迎の挨拶で為実邦義7RCは、個人的にも親交の深いガバナーの温厚篤実な人間的魅力を披露された。松本勤地区名誉顧問からガバナー激励の力強い挨拶をいただいた。

西園寺ガバナーは運営方針で、楽しい例会大賞・思い出の一本の木大賞や合同アクティビ賞など、アイディアマンのガバナーが今期設定したユニークなアワード賞などの説明をされた。委員会活動方針は、各委員長よりお願いをかね挨拶を行った。会場は「徳島藍」の女性クラブの会員、事務局など20名程の女性の出席を得て、一段と華やかである。「山川高越クラブ」は結成6年目を迎えるが、当初50名いた会員が現在25名に減ってしまった。この現状についてガバナーは、退会者は経済的な理由と思われるが、実は人間関係による方が多く、横のつながりを大切にして退会者を防止しようと、自分の体験を通じた自論を唱えられた。またガバナーは「ライオンズは退会者に対して少し冷たいのではないか?」と言わ

れ、「長年会員として活動して、功績があっても退会すればそれっきりで、送別会も行わないのが大半ではないか?」と。

しかし徳島には温かい人間味のあるクラブがあった。中村正和会長の「阿波池田LC」では、退会者に対し在籍年数に応じ、記念品として「金一封」を贈り送別会を行っている。ライオンズマンシップに富んだクラブである。

「鳴門LC」では映画「バルトの楽園」のロケ村運営委員に会員が多く参画したり、一番札所の遍路道に梅檀の木を植え、木陰を作る環境美化計画を進めている。

「神山LC」は人口7000人の町だが、ホテルいっぱい運動を推進していて、愛媛県中山町のホテルの里へ見学に訪れている。7Rは個性豊かに、それぞれ地域の環境に合った活動がされている。

懇親会は2日間にわたった徳島でのガバナー公式訪問をねぎらい盛会であった。ホストクラブの阿波池田LCに感謝。



ガバナーの活動の原点 徳島を訪れて



拍手で迎えられたキャビネット役員



和やかな笑顔に溢れる会場



懇親会で談笑する松本名誉顧問とガバナー

1 REGION

日時 ■ 9月10日(日)午後1時より
 場所 ■ 松山市愛媛県民文化会館
 ホストクラブ ■ 松山南ライオンズクラブ

手応え充分、公式訪問の成果

7月29日2Rから振り出したガバナー公式訪問の旅も、猛暑の中を一ヶ月かけ、四国を一巡して9月10日最後に残った1Rを訪問した。前夜から朝にかけて愛媛県下は、夏の終わりを告げるかのような激しい雷雨に見舞われた。会場は愛媛県民文化会館。宇都宮徳一1RCの歓迎の挨拶で始まり、ガバナー激励の言葉で宮内浩四郎地区名誉顧問(常任)は、無事公式訪問を終えた事を讃え「私がガバナーを受けた時、体重が減ったが、西園寺ガバナーは3キロ肥えたと話されていた。」とユーモアを交えた挨拶でガバナーを激励した。「ライオンズは楽しいですか」こんな話しかけが始まる西園寺ガバナー公式訪問も今回が最後。

上着を脱いだガバナーは気合十分。昨日広島を訪れジミー・M・ロス国際会長の歓迎会に出席したガバナー、女性会員を五万人増やし、女性のパワーで活性化を計ろうと言う国際会長のメッセージを会員に伝えられた。

19人の会長と質疑応答する時間は、一人5分間に制限された。

豊田茂樹会長の久万LCでは、例会も懇親会も禁煙を実行している、覚醒剤やシンナーなど薬物以上に喫煙で多くの人々が命を落としている。健康に有害な喫煙止める運動をライオンズのような大きな組織で取り組んではどうかと提案。松山つばきLC、新開千富美会長より平和ボスター募集は今年で4回目になるが、松山市内小中学校90校あり、市内のクラブが独自の考えで学校にポスターを依頼するため、学校側から、どのクラブに提出すればよいか困るといふ話があり、今回教育委員会に相談し、担当校を決め、市内全体で審査会を行う方法を検討中。

伊予LCは、事業委員会を60回も開く熱心なクラブであるが、永井克彦会長から、理事会及び例会で承認された事項に、後に不具合が生じた場合、執行の停止また停止を求める権限は誰にあるのか、またどこに求めるのか?の質疑があり、これに対しては宮内名誉顧問が明快な解答をされた。

最後に兵頭修キャビネット会計より、3361A地区公式訪問を終えるにあたり、

「会計の面から見たLCの活動」と題し、統計をもとに健全経営のバランスについての話があった。

懇親会は、宇都宮徳一1RCの挨拶、宮内政三地区名誉顧問の乾杯で始まった。司会の伊藤伸治1ZCの率いる砥部LCのメンバー8人が、伊予万才の見事な芸を披露して会場から喝采をうけた。次はガラリと衣裳も変わり白鳥の泉のバレエ団に変身、全員抱腹絶倒、さらにチンドン屋に早変わりして、会員の席を廻り会場を沸かせた。砥部LCにはこんなイキな同好会があるのか?ガバナー公式訪問千秋楽にふさわしい懇親会であった。



最後の訪問先1Rの会場風景



宇都宮徳一1RCの挨拶



懇親会で乾杯の首頭をとる宮内政三地区名誉顧問



懇親会での砥部LCメンバーの伊予万才



ジミー・M・ロス国際会長公式訪問

2006年9月9日(土) 3361C地区の中心都市、広島市の広島全日空ホテルで2006〜2007年度、ライオンズクラブ国際協会336・337複合地区を、国際会長が公式訪問されました。出席者は予想を大きく上回り、400名をはるかに越えていました。3361A地区は西園寺ガバナーを中心に、八幡浜キャビネット全員、RC、ZC等々総勢42名出席をいたしました。

式典に際し、国際会長夫妻は、337複合地区カバナー協議会議長の先導で入場されました。会長はトレッド・マークのカウボーイ・ハットをかぶり、両手を高くかかげ手を振りながら、ご夫妻揃って壇上にはがられました。入場時から始まった拍手が壇上で最高潮に達しました。

ご来賓は、国際理事 L谷野徹、元国際理事 L福井正憲・L大久保 彦・L藤井基博・L名越 勉方々でありました。式典の開会が宣言され、両国歌、ライオンズ・ヒム、来賓等の紹介、歓迎の挨拶、国際理事挨拶、国際会長紹介、国際会長スピーチ、国際会長アワード贈呈、記念品贈呈、閉会宣言で公式訪問式典が終了したのであります。

両国歌演奏は、厳粛な中にも厳かで、未来を祝福するような雰囲気醸し出されていきました。国際会長紹介ではビデオ放映がなされ、会長の、地元テキサスでの日常のライオンズ活動の実施情景を拝見させていただきました。また、驚いたことは、馬に乗り自由自在に馬を操り、野を駆け巡っている元気なお姿が写しだされ、出席者全員感銘を受けたのであります。

会長スピーチでは、「皆様方の長年にわたる献身的な活動に対し、敬意を表すると共にお礼と感謝を申し上げます」と語りかけました。

また、「今年度は私自身国際会長として、15のクラブを結成することを決意しました。各地区にも新クラブ結成の目標を掲げたい」との思いを話されました。

公式訪問式典終了後「歓迎午餐会」が開催されました。開演は管曲演奏で、国際会長夫妻を歓迎いたしましたのであります。酔えば酔うほど、ライオンズ活動等についてのディスカッションがあちこちの席で熱心に行われていました。

また、会長を囲んでのスナップ写真を地区、個人、役職ごとに写している光景があちこちで見受けられました。西園寺ガバナーは、精力的に各地区のメンバーと言葉を交わしながら、会話に花を咲かせていました。

国際会長を真ん中に、西園寺ガバナーと3361A地区の皆さん方が写真に収まったことは、将来大きな励みになると共に、思い出なることを信じて、ウィ・サーブ。

「見える」「いっしょの喜び、 いつまでも」

視力ファーストIIキャンペーン

CSF II 地区コーディネーター

山地 章靖

1925年に開催された国際大会で、ヘレン・ケラー氏がライオンズに「暗闇と戦う人々の騎士になってください」と呼びかけたことから、失明根絶に向けた私たちの取り組みが始まりました。以来、視力関連活動はライオンズの中の中心的な活動として位置づけられ、世界中で数々の啓発事業、アイヘルス・プログラムを実施して来、1990年、LCIF交付金を活用する国際的なプログラムとして「視力ファースト」をスタートしました。

この事業資金を調達するために行われたのが、「CSFI・視力ファーストキャンペーンI（91〜94年）」です。そして、2005年1月、15年ぶりとなる「CSFII・視力ファーストキャンペーンII（05〜08年）」が開始されました。CSFII（視力ファーストキャンペーン

II）は、視力ファーストに充てる1億5千万ドルを調達するために世界44600クラブ、135万人の全会員が行う世界規模の資金獲得事業です。

日本ライオンズは、5100万ドルを目標設定しており、これは前回の「CSFI」の時と同額です。

視力ファースト・プログラム

視力ファースト・プログラムの果たした成果について、今一度、国際協会の公式サイトより見てみます。

ライオンズはこの15年間失明予防事業だけでなく、さらにその65年も前から「盲人のための騎士」として視力回復のための活動を行ってきました。15年間でライ

オンズの失明予防及び視力回復の恩恵を受けた人々は2400万人にも上ります。これはニューヨークと東京の総人口を足したよりも更に多い人数です。

如何にして

それは成されたか？

視力ファーストがそれを可能にしました。

視力ファーストによる継続的な失明原因の除去活動、アイ・ヘルス・システム構築、そして地域社会で何年もに亘りアイ・ケアに携わっていく専門家のトレーニングが、この非常に大きな結果を生むことになったのであります。さらに、一人の人生が闇に覆われてしまうことから



逃れるのに掛かった費用は、わずか6ドルに過ぎませんでした。

視力ファーストは世界中の何千万人もの人々にかかわってきました。視力ファーストを通じてライオンズは世界を変えているのです。

今や世界はライオンズを予防可能な失

明根絶における国際的なリーダーと見なされています。

視力ファーストが成し遂げたこと

- 2400万人の失明の予防
- 6500万件の河川失明病の処置
- 88ヶ国で739件、延1億7900万人への啓蒙活動
- 460万人の白内障患者の視力回復
- 数億人に対する視力ケア・サービスの向上
- 207カ所の眼科病院・クリニックを建設拡張
- 314ヶ所の眼科センターの設置改良

- 8万3500人の眼科医、看護師、ケースワーカーの訓練
- 世界保健機構(WHO)とパートナーシップを結んで児童失明の根絶に取り組んだ、世界初の組織。30ヶ所の小児眼科センターを設立。

1年目結果

CSF II (視力ファーストキャンペーンII) は、2年目に入りましたが、1年目の336-A地区の実績は(リジョン別の実績は別表の通り金額600千ドルで初年度目標金額894千ドル)に対して達成率67・1%、一人当たりの金額で91ドル(目標・一人当たり135ドル)であり、やや低調でありました。

今年度は重点的に推進し、2年目に向けて期待したいものです。

リジョン別実績表 (2005.7~2006.6)

	実績金額	初年度目標達成率	一人当たり
1 R	12,914,455	92.3	\$ 125
2 R	17,638,241	135.0	\$ 182
3 R	8,835,433	53.0	\$ 72
4 R	6,503,940	59.9	\$ 81
5 R	1,315,540	12.7	\$ 17
6 R	2,184,820	23.6	\$ 32
7 R	5,643,875	51.4	\$ 69
8 R	7,365,793	71.1	\$ 96
9 R	7,833,385	88.4	\$ 119
地区合計	70,235,482	67.1	\$ 91

2年目活動について

「モデルクラブプログラム」

初年度における日本のモデルクラブは、世界1200中700でありましたが、モデルクラブプログラムの参加を求め、クラブの要求に答え、国際委員会ではモデルクラブの受付期間を延長することにし、今年度及び次年度も、キャンペーン期間中参加を受け付けることになりました。

2005~2006年度のモデルクラブは、「道を先導する」
2006~2007年度のモデルクラブは、「挑戦を受け入れて」
2007~2008年度のモデルクラブは、「成功を確実にする」クラブとして表彰されます。

2年目目標達成、更には最終目標達成に向け努力、協力をお願いします。



第一回名誉顧問会議



日時 ■ 7月15日(土) 午後2時より
場所 ■ 八幡浜市仲之町
ハーバープラザホテル

リジヨン・チエパソン会議



日時 ■ 7月22日(土) 午後3時より
場所 ■ 八幡浜市仲之町
ハーバープラザホテル

第一回キャビネット会議

日時 ■ 7月23日(日) 午後3時より
場所 ■ 八幡浜市仲之町
ハーバープラザホテル



▼前地区キャビネット三役に感謝状が贈られる



〈表紙写真〉

高知遺産に吹く新しい風

JR高知駅から東南へ徒歩約10分、高知城の堀の役目を務めた江ノ口川の水面に映る「葦工倉庫」。多くの写真家が昭和のノスタルジイを今に感じさせるスポットとして訪れる所。

建築時期を所有者の(有)イケダ代表取締役池田文七氏に尋ねると、意外に新しく昭和27年から42年にかけてとのこと。当時は包装資材として筵・荒縄・かます等、葦の需要が盛んな反面、葦は年1回の産物、これを十分に収納保管するスペースとしてこの巨大な倉庫が必要だった。葦の保存には、湿度・温度の管理が肝要でそれにはこの土佐漆喰の土蔵が最適だった。土蔵づくりには長い年月と労力・卓越した技術が必要であったが、幸い高知は上質な石灰石が産出し、職人にも恵まれていた。土蔵を造るには、赤土作りから始め、粗うちし約3ヶ月かけて乾燥させ、そこへ押さえの葦を入れ赤土を塗り乾燥、漆喰を塗るまでに4回は繰り返し、漆喰も数回塗りつてようやく仕上がりという工程だから、早くも完成までに3年の年数がかかる。

しかし、時代の移り変わりは速く、包装資材も葦から石油製品へと変遷し、近年葦の資材としての扱いは高は一割弱になり、在庫する事もなく蔵もしばらくはひっそりとしていた。

ところが、今年7月、この土蔵を活用しようとしてテナントが入り、複合施設として、ギャラリー・カフェ・アート雑貨販売・癒しのエステサロン等のスペースがオープンした。今秋には、居酒屋や美容室も開店する予定。

池田氏によると、「壁の中の練り込まれた葦は永く生き続けている」とのこと。その息遣いを感じ取りながら、長い年月に培われた本物の空間の味わいと、新しい創作芸術に触れてみるのもなかなかのものだと思ふ。

尚、余談ですが、この「葦工倉庫」のすぐ近くに、東経133度33分33秒・北緯33度33分33秒が交わる世界唯一の「地球33番地」もあります。

写真撮影／高知北LC 岩川康夫
(高知北LC 高橋光男 記)

▼懇親会



西園寺地区ガバナー公式訪問記念

思い出の木植樹

日時／2006年8月26日(土)12時30分
場所／香南市 県立月見山 子どもの森
植樹本数／5本 おかめ桜・東錦桜・普
賢像桜・御衣黄桜

植樹者／西園寺純一 地区ガバナー

三谷智省 副地区ガバナー

小松義徳 8R-RC

山口和哉 地区キャビネット幹事

兵頭 修 地区キャビネット会計

西園寺地区ガバナーの8リジョン公式訪問を記念いたしまして、開催地の土佐香南ライオンズクラブによる「思い出の木」の植樹式が県立月見山・子どもの森にて西園寺地区ガバナー・三谷副地区ガバナー・キャビネット役員が多数参加して行われました。

この桜の植樹は宮地健三地区名誉顧問が植樹の一週間前に、出雲で会議があった際に思いつかれ、山口キャビネット幹事に「ガバナーの公式訪問を記念して植樹をしたらどうだろう。」と相談され、山



思い出の一本の木を植えるガバナー

口幹事も「結構でしょう。ガバナーも喜ばれるでしょう。」と快諾されました。

宮地地区常任名誉顧問は8月21日に早速1997年度8R-RCの野村土佐夫(土佐香南LC)氏に電話され「公式訪問に花を添えるということで、高知においでた時に記念植樹はどうだろうか。」とご相談されました。

すぐさま翌日8月22日に野村氏はクラブの理事会にかけ、植樹が採択されました。宮地地区常任名誉顧問が土佐香南クラブに植樹を相談されたのは、このクラブがもうすでに5773本の桜の植樹をされており、西園寺地区ガバナーが出身地の三崎半島を世界一の桜並木にと植樹を続けている姿と合致したのだろうと思われまます。

土佐香南ライオンズクラブでは、西園寺地区ガバナーの新しいアワード「思い出の一本の木大賞」にちなんで、「県立月見山 子どもの森」山頂に植樹場所を決定し、野村氏(現幹事)が植樹杭を作成し、当日にそなえました。

植樹当日は、小松義徳8R-RCのご挨拶に始まり、猛暑の中ガバナーと一緒に植樹を終えました。

小松RCは、公式訪問の挨拶の最後に「思い出の桜木の成長を祈念して、歓迎のご挨拶とさせていただきます。」と締めくくられました。



挨拶をする小松リジョンチェアパーソン

また、宮地地区常任名誉顧問は公式訪問の「激励のあいさつ」のなかで、「ガバナーが公式訪問でこられた時に、花を添えて植樹をして頂きたい、それは普通なら実行できないのですが、このクラブは一週間前に私がちらつと言った事を完全に実行していらつしやる。この実行力がライオンズには非常に必要だと思います。」と力を込めてお話されました。

西園寺地区ガバナーのために、ご尽力され、足の不自由さを推して公式訪問に駆けつけられた宮地大先輩、そして手術間もないと思われ、声も出すことも出来ない身体で、受付の前に座り参加者をお迎えされていた高木皖水両先輩に、ライオンズスピリットを見たのは私だけではない、けつてなかつたはずです。(編集委員)

後任の7R-RCを拝受して



7R-RC
為 実 邦 義

14年ぶりに拝受することになった18クラブのお世話役、まさか浅学、経験不足の私がお引受することになるとは、ただ所属クラブや2Z-RCの方々の献身的なご協力、ご援助を目的にしたりして、44年の歴史を刻んできた阿波池田LCの名に恥じないライオンズマンとして白紙にかえって精一杯努力することを決意いたしました。

ジミー国際会長の提唱する原点を見つめ直して「われわれは奉仕する」を念頭に、地区ガバナーの運営基本方針を各クラブに徹底をはかり7リジョンの活性化に取組んでいきます。したがって次の項目を推進してゆきたいと思ひます。

- (1)各クラブが委員会活動をより活発にし、その中で友情の輪を広げ、共に楽しい奉仕をしていこう。
- (2)ゾーンチェアパーソン・地区委員と密接な関係を保ち、各クラブの要望や問題点を十分に把握して対処していきます。
- (3)3人のZCと話し合せて、ゾーン内の各クラブの交流をより活発にするよう要請する。
- (4)地域の人々にライオンズクラブの活動を広く知ってもらうようPRをはかる。
- 近くの記者室へ広報資料を届けて新聞掲載をお願いする。
- (5)西園寺ガバナーの提唱する思い出の1本の桜を残す為、に各クラブ例会訪問で訴えていきます。

まだ実践していくことは右記以外にたくさんありますが、会員一人一人がマンネリ化を打破して素晴らしいリジョンになるよう、地域に密着したアクティビティを通して、頑張っていきたいと思いますので、よろしくご指導、ご支援をお願いいたします。

※鳴岡孝雄氏の奥さんが病気のため7R-RCが為実邦義氏に変更になりました。

特集

Youth Exchange Camp

336-A地区・B地区合同 YEサマーキャンプ

昨年に続いて336-A・B地区合同のサマーキャンプが7月25日から三日間にわたり、愛媛県大洲市の「国立大洲青少年交流の家」において八カ国17名のYE生を招いて開催されました。

7月25日(火)【第1日目】

松山にて昼食をすませたYE生と、岡山よりお手伝いの5名のレオクラブの皆さん、A・B地区のYE関係者は昼過ぎには大洲青少年交流の家に着いたしました。2時30分より西園寺ガバナールを迎えて、総勢34名の関係者によりオリエンテーション並びに開村式が開催されました。

夕方まで自由にくつろいだYE生は、夕方六時にバスに乗り「鵜飼い」体験をするため、肱川中流の「鵜飼いレストハウス」へ直行し、遊覧船に乗船いたしました。

YE生は恵まれたことに、肱川河畔にて行われる予定の花火大会が河川の増水で今日の延期になり、大洲の花火も見学することが出来ました。

7月26日(水)【第2日目】

二日目は、ガバナールの住んでおられる保内町の「あわしま堂」というお菓子の工場見学に来ました。



TANJA ROVIOMAA [FINLAND]

皆さんいい人ばかりで、キャンプをととても楽しむことができました。アクティビティが良かったと思いますが、もう少しゲームが多ければみなさんとより仲良く慣れたのではないかと思います。また、規則がととても厳しかったことが気になりました。自由時間がもう少しあればよかったです。シャワーの場所を見つけるのが大変でした。



FIEORGE LILI [TAIWAN]

私がこのキャンプで最年長のうちの一人だったかもしれませんが、大変楽しかったです。たくさんの友達を作ることができたし、他の場所では体験できないようなことを多く経験することができました。ボランティアの皆さんのおかげで、全員が本当にまとまることができました。彼らのおかげで、たくさんの日本の伝統行事を体験することができました。LEOの皆さんも、熱意を持って迎えてくれたおかげで、とても楽しかったです。また花火、美しい景色、地元の日本人学生との交流などが大変興味深かったです。最後に、本当にありがとうございました。



これから訪れる三崎半島の説明を受けたあと、工場内を見学し、お菓子の出来る工程を見ることができました。

その後、西園寺ガバナリーの提唱する桜並木の植樹をしてある河畔を散策し、三崎半島の先端に近い三崎町にて昼食をいたしました。

昼からは瀬戸・風の丘ウインドパークへ行き、風力発電をしている風車群を見学、宇和海と瀬戸内海を眼下に見渡しました。

保内町に帰り日本古来の伝統でもある「茶道」の体験をしたYE生は、なれないお茶と正座という独特の日本文化を経験いたしました。

大洲青少年交流の家に戻ったYE生は夕食をすませたあと、キャンプ施設に集合し、キャンプファイヤーやゲーム・スイカ割りと楽しい時間を過ごしました。

7月27日(木)【第3日目】

最終3日目、午前中は大洲市長浜町を訪れました。長浜は肱川の河口にあたり全国でも珍しい現役の開閉橋があり、この日はYE生のために特別に橋の開閉を見せていただきました。

長浜の古い町並みを散策しながら禅寺「福成寺」へ訪れたYE生は、「説教」を受けたあと汗をかきながら「座禅」を体験しました。

その後、道路向かいにある「書道教室」へ行き、菊池郁哉先生の指導で「書道」を体験しました。菊池先生のお手本を参



LIN, HUI-CHEN [Taiwan]

素晴らしかったです。LEOの皆さんは良く働いていました。ありがとうございました。全員が楽しく過ごすことができたのではないのでしょうか。



カヌーの時間が例えば3時から5時のようにもう少し遅ければよかったと思います。暑くて大変でした。このキャンプ中にいい経験がたくさんできたとし、違う国から来た友達もたくさんできました。

陳信 捷 [Taiwan]

このキャンプはとても面白かったです。いろいろな国から来た外国人に会えたとし、皆さんかわいかったです。でも、起床が早かったせいで、毎日眠かったです。



皆さんと一緒に、お風呂に入りました。恥ずかしかったですが面白かったです。もっと日本語を勉強したかったのですが、皆さんは英語で話していたので残念でした。

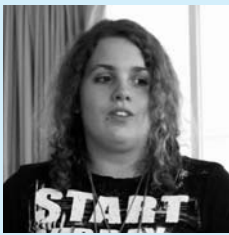


7月28日(金)「最終日」
 8時30分過ぎに大洲を出発したYE生は、それぞれのホームステイ先でバスを降り、丸亀で昼食をすませた後「閉村式」を開催し、多度津駅にて解散いたしました。

考に清書し、先生より朱色の二重丸をいただき、ごきげんのYE生達でした。
 長浜で昼食をすませ肱川中流へ、楽しみにしていた「カヌー教室」を体験するため、バスは大洲市内へ帰ります。
 ウエットスーツに着替え、カヌーを二人で抱えて肱川へ集合したYE生は、インストラクターより説明を受ける先に川の中へ、初めはおそろのおそろ漕いでいたが、やがて自由に川の中央に漕ぎ出し最終の一日を川遊びで楽しみました。
 夜は食事を済ませた後、アトラクションルームにてレオクラブのメンバーの指導でゲームを楽しみながら友情を深めました。



MARIANNE CARSON [NORWEY]



このキャンプは大変楽しかったです。様々なアクティビティもありましたし、いい人にたくさん会えました。カヌーが楽しかったです。他のライオンズの留学生と仲良くなるのにこういうキャンプは大変いい方法だと思いました。
 キャンプは大変景色の美しい地域で行われたと思いますが、大変暑かったです。もちろん楽しかったです。私の唯一の不平はゲームの時間が長かったことです。少し多すぎたのではないのでしょうか。しかし、全体として、とても楽しい時間をすごすことができました。ありがとうございます。



Louise NORSTROM [SWEDEN]



とても素晴らしいキャンプで、日本人のボランティアスタッフもすばしかったです。しかし、少し短すぎたと感じました。十分に深く仲良くなることができなかった人たちにまた会いたくと思います。

邱都 珣 [Taiwan]



このキャンプに参加できて、大変楽しかったです。たくさんの友人を作ることができました。いろいろと準備していただきありがとうございました。また連絡を取り合ってください。

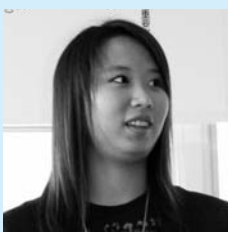
Elisabetta Palumbo [Italy]



とても楽しい時間を過ごすことができました。キャンプの内容は、とてもおもしろくて、とてもいいものばかりだったので、思い出がたくさんできました。外国の友達がたくさんできたので、とてもうれしく思います。残念だったことは、食事が口に合わなかったことです。しかし、キャンプが楽しかったので、それは大きな問題ではありませんでした。スタッフの方々はとても親切でした。スタッフの方々のおかげで、船や、花火など、多くの経験ができました。最後に、本当に楽しかったです。ありがとうございました。



周庭萱 [Taiwan]



今まで行ったキャンプのなかで、とてもいいキャンプでした。外国の友達ができるなど、この経験は、私にとって、特別なものになりました。一番困ったところは、タオルがなかったことです。風呂でタオルを売るとするとよいと思いました。友達と風呂に入ることは、特別な体験でしたが、楽しむことができました。どうもありがとうございました。できることならば、いつか、もう一度ここに帰ってきたいと思います。このキャンプを通して、多くの日本人に会いました。彼らはとても親切にしてくれました。



Selin BAYRAKTAROGLU [Turkey]



このキャンプはとてもよかったです。いい友達がたくさんできました。絶対にこのキャンプを忘れません。いろいろな経験ができました。残念なことに、食事は口に合いませんでした。しかし、これはキャンプなので、食事の味は、あまり重要ではありません。自然や、ゲーム、場所、外国の友達、日本人の友達、すべて最高でした。ありがとうございました。



莊忠哲 [Taiwan]



まず、このキャンプはとてもよかったです。一般的に言うと、どのイベントも期待していた以上でした。しかし、改善できると感じた点が2つあります。まず、私たちにとって、一番必要であったのは通訳であり、その時々何が起こっているのかを知ることが重要であったと思います。よい通訳なしでは、真の日本の文化や、日本人の精神について理解できません。例えば、アジア文化を全く知らない人にとって、禅とは何かを理解するのは難しいことですが、大切なことです。事前に、禅についての情報をしっかりと集めてから適訳することが大切だと思いました。(今回の場合は、英語はもちろん、中国語を話す人が大半を占めていたので、中国語の通訳もあればよかったです。)

次に、何人かにとっては、食べ物が問題であった気がします。(私は大丈夫でした。おいしかったです。)事前に、どんなものが食べたいか、調査をしておくのもいいかもしれません。生の魚を食べられない人がたくさんいたのを見て、事前に聞いておけば、無駄にならなかったと思います。この2点を除いては、最初に書いたように、すべて、とてもすばらしかったです。花火、ビンゴ、鵜飼、書道、キャンプファイヤー、風力発電、全部楽しかったです。ありがとうございました。

特集
Youth Exchange
Home Stay

素晴らしい体験、国際人としての第一歩。
ホームステイレポート

この出会いを大切に

丸亀LC 丸亀高校 森高 史彦 (16)

シンガポール、マレーシアの人々はよく働き、温厚な人柄である。これが僕の一番の感想である。ホストファミリーが温かく受け入れてくれたためか、僕がホームステイ先の生活に馴染むにはあまり時間がかからなかった。むしろ最初からどこか懐かしい気さえした。なぜなのか、ホームステイ中、一度冷静に考えてみたことがあった。ホストファミリーやライオンズの方々、同世代の人たち、行事への参加で行く先々で出会い、言葉を交わしていくうちに覚えてきた。そうだ、似ているからだ・・・と。僕たちが日本で送っている生活に、そしてものの考え方や感じ方に似ているところがいくつもあった。

今では日本の文化となっているアニメとマンガをシンガポール、マレーシアで観ることができた。英語や中国語、マレー語に吹き替えられたり、字幕を付けたりして現地の人々にとっても親しまれていた。丁度ホストブラザーのお土産に日本のマンガを持って行って、プレゼントするととても喜んでくれた。

しかし、どうしても戸惑ったことはあつ

た。一日に何回食べるのか？と思うほどよく食べる。それに一品一品が食べきれないほど量が多い。毎回食べきれずに残してしまふほどだ。また、食事の時刻が遅いのも特徴的だった。あるときには昼ごはんを午後三時ごろに食べることもさえた。

マレーシアで美しく豊かな自然を見、シンガポールでは発展を遂げる都市国家を見てきた。

この二十九日間のホームステイで数多くの驚きと同時に同じだけの喜びを見できた。六軒のホストファミリー、十八人の仲間たち、何百何千という現地で知り合った人々たち。この出会い、この機



会を大切に将来は広い視野と心をもつた国際人として世界で活躍したい。



夏期YE派遣に参加して

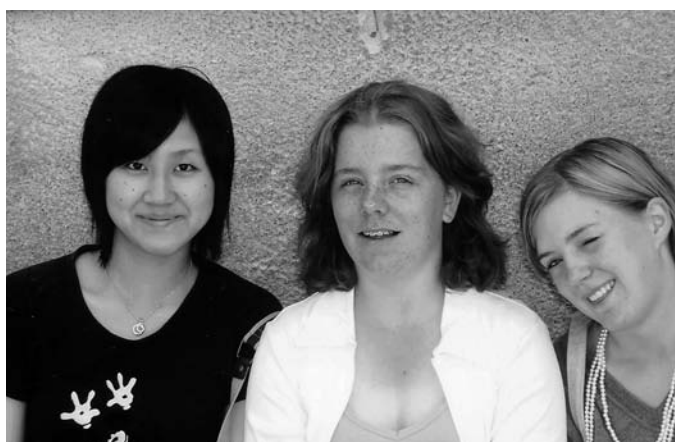
丸亀LC 丸亀城西高校 北山 淳子 (17)

私の人生初の海外旅行は約30時間にも及ぶ大移動で始まった。今回私が訪れたのは北欧のフィンランド。北欧と言うととても離れている気がするが、日本もフィンランドもロシアという共通の隣国をもっている。国土の多くが森や湖でおおわれており、サウナの発祥地やムーミンの生まれた場所としても有名だ。私は7月24日〜8月24日までの1か月間をこの魅力あふれる国で過ごした。

まず、7月24日〜7月30日まではLimoという小さな町で一つのホストファミリーと生活を共にした。私がフィンランドでまず楽しんだことといえば、サマーコテージでの生活だろう。多くのフィンランド人が森のど真ん中に自分のコテージを持っていて、そこでサウナやスイミングを楽しむのだ。私はそこで過ごす時間が本当に好きで、ボートをこいだり登山や散歩をして楽しんだ。他にもハーミソールド、トゥルク城、教会、劇場へ行った。私のお気に入りの場所はムーミンワールドがあるナンタリという港町。太陽の光が反射してキラキラと光るのが



とても美しく、潮風が気持ち良かった。
7月30日〜8月8日まではsitikanantaとい
う場所でキャンプに参加した。世界25か
国から同世代の人が集まって10日間一緒
に生活したのである。初日に驚いたのは、
みんなとても上手く、その上速く英語を
話すこと。始めは不安だらけだったが、
自分から話しかけるうちにだんだん慣れ
てきて友達もできた。このキャンプで私
が嬉しかったのは、グループを作ったり
男女が分かれる必要が無かったこと。だ
から普通に誰とでも会話できたし、それ
は本当に楽しかった。キャンプでは良い
思い出がたくさんできたとし、多くの国
人と出会ったことで自分の視野も広がっ



た。参加して本当に良かったと思う。
最後の2週間はEspooで2つめのホスト
ファミリーと一緒に生活した。このホス
トファミリーは数少ないスウェーデン語
を話すフィンランド人であり、いろい
ろな意味でおもしろかった。また、この家
族ともサマーコテージに行つて、そこで
3日過ごした。そこはすぐ目の前に海が
あり、私は砂浜に寝ころんで空や海を見
るのが大好きだった。彼らとはパーベキユ、
Sigtuna、サウナ、スイミングなどをして楽
しんだ。
帰国間際には本当に帰るのが嫌でたま
らないくらいフィンランドが大好きになっ
ていて、それは帰国した今でも変わって



いない。ホストファミリーと別れるのは
つらかったが、1年以内に絶対フィンラ
ンドに帰って来ると約束した。
今回の旅で私は自分をみつめ直す機会
が多くあったし、様々な国の人々と触れ
合う機会も多かった。その中で悩んだり
戸惑ったりしながらも、自分を磨くこと
ができたと思う。高校最後の夏休みをこ
んなに素晴らしい国で過ごせて本当に良
かった。私は今、この旅を支えてくれた
人々の旅で出会った全ての人に対して感
謝の気持ちで一杯。本当にありがとう。

笑顔

丸亀LC 藤井高校3年 岩本 理沙 (17)

私は、今回のイタリア留学を通して本
当にたくさんのことを学び、そしてたく
さんの思い出作りをすることができまし
た。

親元を離れて、たった一人で異国に旅
立つ時は、怖さや不安でいっぱいでした。
けれど、その地に足を踏み入れ、ホーム
ステイ先の家族に会ったときにはそんな
不安はなくなっていました。どの家族も
温かく私を迎えてくれて、毎日何不自
由なく楽しく生活することができました。
イタリアで、私が一番心に残っているこ
と。それは、ローマに向かったときのこ
とです。

ローマといえば、イタリアの首都であ
り、街全体がまるで芸術のように素晴
らしく、建物もおしゃれで美しい街で有名
ですが、その期待と反面、私が見たもの
はたくさん観光客の端にいる、「ストリー
トチルドレン」の姿でした。日本では、
ほとんど見られないその光景に私は、ロー
マの美しさが消されるような想いでした。
地下鉄も、道も、駅にも、いつも聞こえ
てくるのは、アコーディオンの音色でし
た。彼らは、自分たちの前に紙コップを
置き、人々からお金を恵まれるのを待っ
ていました。小さな女の子が、「プレーゴ
(お願いします)」といながら、歩き回
ったり、赤ん坊を連れた私と同年くらい
の女の子が、母乳を赤ん坊に与えながら、

じつと通って行く人を見ていたり、様々でした。私はどうしたらいいかわからず、この現状に胸を締め付けられる思いでいっぱいになりました。私に何ができるのか、何かできることがあるのか、考えました。けれど、幸せな私にはすぐに浮かんでくる物がありませんでした。

私には両親がいて妹がいて、毎日帰る家があつて食べる物がある。そんなごく普通で当たり前だと思っていた生活がで

いものだなあと思いました。そしてきつとどんなことがあつても人は笑える。笑顔は人を元気にするものなんだと思いました。

最後に、今回イタリア留学できたことを本当に心から幸せに思います。サポートしてくださったライオンズクラブの方々、迷っていた私の背中を押してくれた先生方、励ましてくれた友達、そしてなにより、いつも支えてくれた、両親。全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました。この留学で学んだこと感じたこと、その経験を活かし



全てが初めての体験

高松愛 LC 三木高校 崎山 剛志 (16)

今年の夏は、僕にとってとてもかけがえのないものでした。初めての海外、初めてのホームステイ、初めての文化、見るもの感じるもの全てが初体験で、毎日わくわく胸をおどらせていたことが今でも思い出されます。

僕が訪れた国マレーシアは、多くの民族・文化が混在する国で、日本では決してできないような体験を多くすることができました。例えば、日常生活。英語でコミュニケーションをとるなど言語の違いはもちろんのこと、文化、宗教などが違うので食事一つとっても、毎日のように出てくるチリソース、マレー系、中国系、インド系の料理など最初はすごく戸



惑いました。他にも、マレーシアの学校へ行ったり、ジャングルへ行ったり、海へ行ったりと様々な貴重な体験をすることができました。そんなすばらしい日々の中で一つずつ心に残っていることがあります。それは、8月15日、セカンドファミリーで言われた言葉です。その日はどのTV番組もニュースで、日本で小泉総理が行った靖国神社参拝が報道されていました。僕がニュースを見ると、ホストマザーは僕の隣に座り太平洋戦争のことを話してくれました。日本人、僕たちの祖先が戦争で行ったこと、女子供の殺し方など。その話の中でホストマザーは、「You must study about this one」と僕に言いました。僕は、この言葉を聞きししばらく何も喋りませんでした。少し前に起こった中国での日本に対するデモなどが思い出され、言葉にならない気持



ちが胸に込み上げてきました。
正直なところ、英語力などというものは全く身についた気がしていません。しかし、マレーシアで過ごした一ヶ月間で、パンフレットなどでは分からないマレーシアがたくさん学べたような気がします。
最後に、日本、マレーシアのライオンズクラブの皆さん、ホストファミリーの皆さん、本当にありがとうございました。

自然の豊かさを実感

北島LC 徳島北高校 水主 妃里子 (18)

八月一日から八時間かけてオーストラリアのブリスベンに到着しました。気候は、日本と逆で冬だったけど昼間は半袖で大丈夫なほど暖かったです。二泊三日のキャンプをし、四日の朝、ブリスベン空港から飛行機で一時間ほどでホストファミリーの住んでいるバンダバーグに到着しました。バンダバーグはサトウキビが有名で、私のホストファミリーもサトウキビの畑を所有していました。家は街のはずれの方だったので自然豊かな場所でした。夜は星がとともきれいで感動しました。

一日を、四歳と七歳の孫達と遊んだり、買い物やビーチに連れて行ってもらい過ぎました。バンダバーグには四人派遣されていて、その派遣生と、近くの町に派遣されている派遣生二人の六人でオーストラリア動物園に行きました。日本では見られないカンガルーやコアラを見ることができ、とても感激しました。その他、ライオンズの例会にも招待されました。違う地区の例会や複合地区のミーティングにも参加させてもらいました。

ホームステイ中一番困ったのは、英語を聞き取れても自分の気持ちを英語で話すことができなかったことです。行くまでもっと勉強しておけばよかったと、とても後悔しました。

このホームステイで自分の英語力の低



さを実感できたし、日本との生活スタイルや文化の違いを学ぶことができました。なにより自然の豊かさは日本と全く違うと思いました。

受験でも忙しい高校三年生の夏休みを、オーストラリアというすばらしい



国でホームステイできたことは一生の思い出です。こんな体験が出来るのも、ライオンズの皆さんのおかげだとおもっています。この体験を生かし、これからの自分の人生に役立てていきたいと思えます。

友好・親睦 同名の“縁”を大切に

同名ライオンズクラブ交流報告

やるのが豪快！ 全国友好葵ライオンズクラブ大会

第三十五回高松大会 実行委員長 山田 守

全国の徳川家康ゆかりの地に十四の葵ライオンズクラブがあり、三十八年前から全国友好葵ライオンズクラブが結成され、毎年持ち回りで大会や記念アクティビティが賑やかに開催されています。

直近では一昨年の平成十六年四月、第三十五回全国友好葵ライオンズクラブ高松大会、同年九月、第三十六回川崎大会、昨年平成十七年十一月、第三十七回福井大会、そして本年平成十八年十一月二十一日・二十二日の両日、今年三月に就航したばかりの我が国を代表する豪華客船飛鳥II（四万九千トン）を二日間にあわせて借り切り、全国の葵ライオンズメンバー八百名の参加のもと徳川宗家第十八代当主徳川恒孝（つねなり）公をお招きして、第三十八回全国友好葵ライオンズクラブ東京大会を開催します。

同じ船内で一泊二日の同じ時を過ごすことで全国友好葵ライオンズクラブの絆がさらに強くなり、親睦の輪も一層広がります。

このことと想います。また豪華客船からは華やかさと高級感、全国友好ライオンズクラブの大会として相応しいものになると確信しております。

全国の徳川家康ゆかりの地に、葵の名を持つライオンズクラブが友好という名のもとに、固い絆で結ばれて早くも三十年。元来、相互啓発はクラブライフの大きなメリットの一つでもあり、友好クラブとの関係を密にすることにより、このメリットを助長し、メンバーとしての自覚も向上させてくれます。また合同記念事業はその結果を相乗的に高め、各クラブの活性化に寄与してきたことは云々までもありません。

同じ船内で一泊二日の同じ時を過ごすことで全国友好葵ライオンズクラブの絆がさらに強くなり、親睦の輪も一層広がります。

全国友好葵ライオンズクラブ三十八年の歴史が、自然がおりなす春夏秋冬の移り変わりの中で、ライオンズムの原点を見失わず、時代の変遷を見極めて、地域社会に密着した誠実な奉仕活動への道に通じてきたものと信じております。



2006年春デビュー話題の豪華客船 飛鳥II

「飛鳥II」郵船クルーズ所属 総トン数：4万8621トン
全長／全幅：241m／29.6m 客室数：400室 乗客数：720名

3R・1Zクラブ同盟の活動状況

クラブ名	高松ライオンズクラブ	小豆島ライオンズクラブ	小豆島東ライオンズクラブ	高松葵ライオンズクラブ	高松南ライオンズクラブ	
同盟などの相手先クラブ名	●水戸LC ●台湾・羅東国際獅子会 ●米国・セントピーターズバーグLC ●韓国・龍鳳LC ●彦根LC	●若杉福岡LC	●茨木ローズLC	●京都葵LC ●静岡葵LC ●和歌山葵LC ●水戸葵LC ●名古屋葵LC ●岡崎葵LC ●会津若松葵LC	●川崎葵LC ●福井葵LC ●東京葵LC ●浜松葵LC ●川越葵LC ●松江葵LC	●全国南LC友好会 ●徳島南LC
同盟などに伴う交流の内容	●会報誌の交換 ●周年行事などの相互訪問	●例会訪問（隔年に交代で訪問） ●同好会交流 ●周年式典交流 ●会報などの交換	●例会訪問 ●合同例会 ●魚釣大会、ゴルフなど	毎年1回ホストクラブを定めて友好葵大会を開催	●毎年1回ホストクラブを定めて友好会を開催。同日、理事会と情報交換会も行う。 ●徳島南LCとは、毎年1回どちらかがホストになり友好会を行う。	
直近の交流状況の概況	当クラブ認証50周年記念式典開催に伴い、全姉妹、友好提携クラブ会長および会員の来訪があり、交流を深めた（2006年）	若杉福岡LC（例会場）※2007年3月頃	●茨木ローズLC例会訪問（'06年9月） ●CN40参加（'06年10月）	〈全国友好葵大会〉 ●第35回高松大会（'04年） ●第36回川崎大会（'04年） ●第37回福井大会（'05年） ●第38回東京大会（'06年）	●第29回全国南LC友好会熊本大会（'06年4月） ●徳島南LCのホストで親善ゴルフ大会を開催（'06年5月）	

LC
同名交流

全国南ライオンズクラブ友好会

— 素敵な出会い、友好の輪 —

松山南ライオンズクラブ 門家 聖二

近年クラブ間交流も活発化し、国内、海外との姉妹提携や合同例会、アクティビティの合同実施とさまざまな形での相互交流の機会を作り、メンバー間では得られない学習や癒しの場としての相互啓発とクラブ運営への反映というメリットが生まれております。

私たちのクラブが「南」という一字で結ばれ、今年30回大会を迎える全国南LC友好会をご紹介しますと思います。

1952年3月、日本ではじめてフィリピンマニラLCのスポンサーにより東京LCが誕生して以来、組織の拡大により地区割が進み、地区年次大会、複合地区年次大会においても代議員による大会となり、又地区内のクラブ間交流もその範囲がリジョン、ゾーンに限られる傾向となり、個々のクラブ運営やアクティビティの細かい実施や遠い地区のクラブの考え方や実践面を知るために物足りなさを感ずる中で、全国的視野をもって友好の輪で結びつくことが出来る会として「南(サウス)」の名が付くクラブ(当時48クラブ)に呼びかけ、その趣旨に賛同していただいた22クラブが参加して「友好と親善を尽し、情報の交換によって理解を深めライオニズムの高揚に努める大会」と

して全国南LC友好会が1978年6月20日、第61回国際大会に合せて東京で開催されました。

第1回大会は、1979年1月、提唱者である鈴木光元会長の所属クラブ豊橋南LCのホストで168名の参加で開催されました。以来毎年北は北海道(札幌南LC)から南は鹿児島(鹿児島南LC)まで加入クラブ(現在23クラブ)が立候補制でホスト役を各地で務め、「素敵な出会い」の場を演出していただきおり、各地区の郷土色豊かな芸能、アトラクション、エクスカージョン、ゴルフ大会と常に参加者を楽しませていただいております。特に観光を兼ねてのご夫婦での参加者も年々増加しており、500名を超える規模となっております。

当日式典、懇親会に先立ち、理事会(現次会長出席)及び情報交換会(現次幹事出席)が開かれ、大会運営、開催地の選考や各クラブの活動報告など情報交換を行い、各クラブの運営やアクティビティの活性化に反映するための学習の場が設定されております。

松山南LCも第15回大会(1992年)のホストを務め、一年がかりで準備を進め、遠路松山へ全国より522名のご出

席を頂き、奥道後ホテルを舞台にすばらしい大会となったことが今でも思い出多く残っており、会員の強い絆と結束をこれほど強く感じたことはありませんでした。

第30回大会が来年6月高知県(高知南LC)で開催される予定で、すでに準備に入っておられると思います。どんな大会になるか心待ちにしております。「よさこい踊り」が出るのでしょうか…。すばらしい大会になることを期待し、楽しみにしております。

各クラブも会員増強、クラブ運営、アクティビティへの取り組みにご苦労されておられると思います。幅広い友好組織を通して学習した素晴らしいアクティビティや運営方法の発見がマンネリ化するクラブ活動に「活」を入れるための有効な会として全国南LC友好会がより一層発展し継続することを願っている一人として寄稿させていただきます。



LC
同名交流

愛媛県・広島県吉田中学校 スポーツ交流会「サッカー」

伊予吉田ライオンズクラブ

8月4日朝、中学校に集合した生徒24名、引率の先生1名、ライオンズ会員5名を乗せたバスと保護者6名に乗った車で、8時頃吉田を出発。途中、伊予灘SA、来島SAでトイレ休憩、山陽自動車道小谷SAで昼食をとり、午後1時30分頃に安芸高田市「広島県立吉田少年自然の家」に到着し、広島吉田LCメンバーの迎えを受けました。又、校長先生と監督は松山での会議の後、別の車で夕方遅くに合流しました。

子供達の「少年自然の家」入所オリエンテーリング、記念撮影の後、吉田歴史民族資料館を案内して頂き、私たちは宿

泊先の神楽門前湯治村「千両万両」へ送って頂きました。

温泉入浴、休憩しているところへ、子供達を乗せたバスが神楽門前湯治村へ到着。一緒に神楽「八岐の大蛇」を鑑賞させて頂き、子供達が神楽衣装を着けて記念撮影をしている間に、私たちは例会訪問に向かいました。

例会の運び方は、私達のクラブとは少し違いは有るものの、楽しい雰囲気を感じてきたと思います。なお、二次会「チェリオ」では、更に盛り上がったことは、皆様の想像のとおりです。

8月5日朝8時過ぎに宿泊所を出発、

少年自然の家へ生徒を迎えに行き、吉田サッカー公園に9時前に到着。

開会式、記念写真撮影に続いてA(高学年)の交流試合が30分ハーフで行われ、4対0で愛媛が勝利し、次にB(低学年)の交流試合が15分ハーフで行われ、2対2のドローになりました。

閉会式の後、隣接の温水プールで汗を流した後、少し離れた吉田スポーツ公園で昼食をご馳走になり、午後2時頃、沢山のお土産を頂き、お見送りをうけて、安芸高田市を後に、往路と逆の道「しまなみ海道」を経由して、午後7時に吉田中学校へ帰りました。

山口会長の生徒に対してのご挨拶の後、解散いたしました。尚、その後LCメンバー5人(五岐の大蛇?)で慰労会を持ったことは、当然のことかと思えます。



広島県吉田中学校との楽しいサッカー交流会



LC
同盟交流

平成の高松砂漠が とりもつ縁

神戸一の谷ライオンズクラブ& 高松源平ライオンズクラブ

高松源平ライオンズクラブ

初代幹事 香西繁治



神戸一の谷LCとの縁は、平成の高松砂漠といわれた平成6年7月、突然に梱包されたベットのボルトが事務所に届いたところから始まります。

送り主は、神戸一の谷LCとありましたが、高松源平LCは、6月にチャーターナイトを終えたばかりのクラブで神戸とはなんのゆかりもなく、不思議に思いながら、問い合わせたところ、神戸一の谷LCも結成して2年ほどのクラブ。同じ源平合戦ゆかりの地(ひよどり越えからのクラブ名)水飢饉で困っている高松と何かの縁を感じ、当時の会長が「恵みの水」が是非「友好の水」にとの願いをこ

全国水仙同盟

水仙の芳香のじゅんじゅん

保内ライオンズクラブ 宇都宮利久

「良い人びとが良い町をつくる」を合言葉に、保内ライオンズクラブが取り組んできた環境美化運動は、桜・アジサイの植栽に加え、町花（昨年春の合併で市花となった）水仙が結ぶ交流と協働のまらぶりに発展しています。

二〇〇〇年度（21代国安正夫会長）、現336-A地区ガバナーである西園寺純一氏が交流委員長であったころ、水仙を市町村の花とするゆかりのライオンズクラブに呼びかけ、全国水仙同盟実行委員会を発起されました。

それまでも、花と緑で地域社会の美化活動に奉仕しているライオンズを訪問し、交流してきたのは、富山県となみセントラル、福井県今立、長崎県長崎半島（野母崎）、徳島県阿南、北海道北松山、佐賀県唐津（呼子）、兵庫県淡路南淡町、福岡県穂波町などがあります。

その後、富山県八尾・婦中、奈良県田原本、千葉県鋸南、静岡県下田、大東などのライオンズクラブとの交流訪問が行われ、クラブ周年行事を心待ちにする関係が続いています。

二〇〇二年には第二回水仙同盟交流・北松山ライオンズクラブ来訪。クラブ間の交流と親密な関係構築が、水仙という市町花によって継続されるというの意義深いものです。

春四月上旬、北の大地北松山の玉川公園一帯は、厳冬の雪が消えるのを待って青い芽吹きと八重桜水仙を主に約二十万本の色とりどりの花が芳香を漂わせます。

この水仙は、いつ、どこから届いたのか。そのルーツは意外にも、四国愛媛県の佐田岬の基部に位置する保内町の伊予灘海岸の巖頭にしぶく荒波を眼下に巖然と咲く黄色の八重水仙だったので。

大正十三年（一九二四）十二月、丹羽五郎が所用のため四国にわたり、四国に自生している水仙の品種が、北海道の地に植栽しても十分育成可能と判断し、多量に持ち帰って小金山を中心に分植、現在の水仙郷を形成したという。（佐藤信人氏資料による）

実にドラマチックな、水仙をして語らしめる深い縁ではないか。このルーツが判明したのは八年まえのこと。八十有余年を経



水仙の郷・越前町訪問

て、ライオンズクラブによる「全国水仙同盟」が結ばれたのも奇跡とはいえません。

行政では、全国水仙サミットが開催され、次の第八回は福井県越廼村が主催するという。

クラブ会員は、この会にも参加し、水仙花の縁で、住民も訪れる人も、和み、元気になるふるさとの創造に共通の認識をもっています。

地域環境の美化整備と社会奉仕に情熱を燃やすライオンズクラブが、水仙からの交流と連携を志向するのも当然のことと考えています。



第2回 全国水仙同盟交流会（八幡浜市にて）



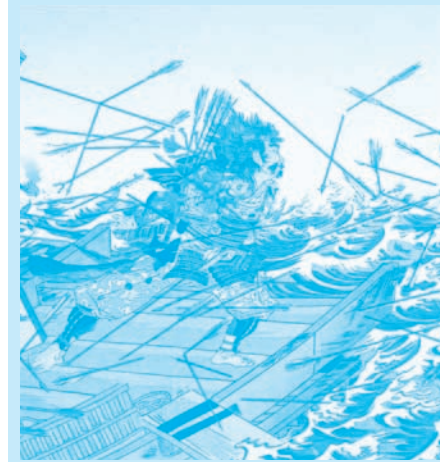
千葉県鋸南町にて

めて送ってくれたものでした。

奇しくも翌年1月、あの悪夢の阪神淡路大震災で神戸一の谷LCエリアの長田地区が壊滅的なダメージを受けたことを知り、被害状況等の連絡をいれましたが電話が繋がらず、ようやく連絡がつき、

早々にお見舞と激励に訪問致しました。それから、両クラブの関係は、急速に深まりお互いのCN記念例会を例会訪問するなど経て、我がクラブの5周年（平成10年12月5日）に念願の姉妹提携クラブの調印をし、併せて記念合同事業（高松市高松町菱の池公園、国旗掲揚台）も行いました。

現在は、毎年CN記念例会の例会訪問と合わせて年1度の合同例会を高松と神戸で交互に開催し、更なる絆を深めています。10月に挙行されました神戸一の谷LC15周年は、少人数の会員ながら、活気にあふれ数々の事業をされておりました。源平合戦ゆかりの地で結ばれた、「縁」を大事に、今後も公私ともに末永く友情が続くことを願っています。



LC
同名交流

みなと同名ライオンズクラブ

八幡浜みなとライオンズクラブ

八幡浜みなとライオンズクラブの他クラブとの交流に、「みなと同名ライオンズクラブ」というものがある。これは1972年に「横浜みなとライオンズクラブ」の提唱で、「みなと」の名がついた全国のクラブが集まり結成され、我がクラブも創立の翌年の1984年より参加し、現在全国で北海道から九州まで23クラブが加盟し、各地区の情報交換をかわしつつ親睦を深めている。



年に一度、立候補し決定したクラブで年次大会（既に6年先の大会まで決定している）が開かれ、前夜祭で各地の名産品のオークション・郷土料理・郷土芸能を楽しみ、またエクスカッションや親善ゴルフが設けられ、ホストクラブの温かさもてなしを満喫している。近頃は各クラブの周年事業と兼ねる事が多く、式典には2〜300名の規模の参加者になっている。我がクラブでも1994年の第23回年次大会を自クラブ10周年と兼ねてホストとなり、全国より317名の参加を頂き嬉しい悲鳴をあげた。その苦労話は伝説化しつつあるが誇りの一つである。

昨年度の第35回大会は「秋田市」（ホスト秋田港）で行われ、東北三大祭りの「竿燈祭り」に合わせて開催され、同伴も含め36名が我がクラブより参加した。今年度は来年2月に「清水市」（ホスト清水みなど）で行われる予定で、既に20名余りが手をあげている。

我がクラブでは、当年幹事が次年度の同名大会委員長（名前は仰々しいが、早く



言えば添乗員である）となる取り決めになつているが、この会で知り合い、この会で再会するのを楽しみにしている会員もあり毎年参加者が多いので大役である。こういう会はライオンズの奉仕活動には関係なし、邪道と言われるむきもあるだ

LC
周年事業

クラブ結成20周年記念式典

上板ライオンズクラブ



へベンチ、町内小学校へ葉ボタンの苗の寄贈等の20周年記念事業の発表があった。式典のあとの祝宴もアトラクションで大いに盛り上がり、お土産には会員手作りの上板名産の「大山柿」が配られた。スポンサークラブの立川福徳島中央ライオンズクラブ会長の発声で万歳三唱と参加者全員が「また会う日まで」を歌い手をつなぎ大きな一つの輪となつて終始和やかなうちに閉会となった。

ろ。しかし我がクラブにおいては会員共通の話題、チームワークづくりに一役買っており、会員相互の連帯感を作ってきたと思つている。連帯感があつてこそ奉仕活動・アクティビティの活発さにつながるのでは…と私見ではあるが心から思つている。

上板ライオンズクラブ（竹重廣久会長）は平成18年10月29日、上板町「技の館」

ホールで、結成20周年記念式典を開催した。飯泉嘉門徳島県知事、荒瀬孝之地区名誉顧問、兵頭修キャビネット会計をはじめ地区役員、ブラザークラブから約100人が出席、盛會裡に行われた。セレモニーのあと、新見正之記念事業委員長から①太陽光発電の時計塔の設置②上板中学校



20周年記念事業「時計塔」除幕式

平成18年10月19日

LC
ライオンズ
クエスト

高知とさみずきライオンズクラブの
ライオンズクエストの取り組み

ワークショップ報告

クエスト委員長 北 泰子

2006年9月30日(土)・10月1日(日)の両日、高知県吾川郡春野町文化ホール・ピアステージにて、教育関係者対象のライオンズクエスト・ワークショップが開催された。四国では、今年3月の高知市内の高知中央高等学校の全教員対象のワークショップに続く第2回目の開催である。県内の中・高校の教員22名、教育長1名、保護者代表1名、ライオンズ会員4名がプログラムの概要を学んだ。

今回は高知とさみずきライオンズクラブと青少年育成支援フォーラム(JIYVD)の主催、高知県教育委員会、高知市教育委員会、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、高知新聞社、RKC高知放送、NHK高知放送局、KUTVテレビ高知、KSS高知さんさんテレビ、エフエム高知の後援で行われた。

ワークショップに参加した高知とさみずきライオンズクラブ岡林明子第一副会長は、今の子どもたちへのライオンズクエスト教育プログラムの必要性を強く感じ、その感想を書いている。

クエスト委員 岡林 明子

クラブがライオンズクエストに取り組みようになり3年目となります。

クラブ内での理解も年数を重ねるごとに深くなってきています。

当時、思春期真っ只中の3人の子育てをしていた私は、個人としてワークショップを一度受講してみたいと思っていました。今回念願かない、現役の先生方と輪の中で共にワークショップを受講する機会に恵まれ大変有意義な2日間を過ごさせていただきました。

子育て中には、フワフワの子供たちの心をつかみきれず後退りしたくなるのが何度かやってきました。まして、常に中・高生の子供たちと向き合っている先生方は、八方塞がりになる事も稀ではないでしょう。どんな時代にも子供たちは生まれ、生活して行かねばなりません。今の社会情勢の中で成長する子供たち一人ひとりが自分自身で考えて生きていく力を育む、その方法(ライフスキル)や言葉がこのプログラムの中にはあります。

私がこのプログラムの素晴らしさを確信したのは、2日間のワークショップを終え、修了証を手にした皆さんの輝くような笑顔と、口々に「明日からすぐに使える」という言葉を聞いた瞬間でした。

ライオンズクラブは自分達かしたい奉仕や事業だけをしてはいけなないと思うのです。人々が望んでいること、世の中に必要とされていることをいち早く見

つけ、行動しなくては意義が半減すると思えます。

このプログラムが宝の持ち腐れになることのないようクラブ同士で情報を交換し、教育機関に提示するのは、未来の国の力である子供たちに対する私たちの使命ではないかと身の引き締まる思いでいっぱいです。

ライオンズクラブ会員の皆さん、是非ライオンズクエスト・プログラムワークショップに参加なさってください。

そこから生まれる子供たちへの思いは、想像以上に深く広いものになるに違いありません。

プログラム内容



〈カリキュラム〉

- 単元1 十代の始まり
 - 単元2 本当の自信とコミュニケーションスキルの形成
ボランティア体験学習
 - 単元3 心の成長と感情のコントロール
 - 単元4 友人関係の改善
 - 単元5 家族のきずなの強化
 - 単元6 薬物に関わらない健康な人生
 - 単元7 健康な生活のための目標設定
 - まとめ 学習の効果の振り返り
- ※単元名は変更する可能性があります



このプログラムは、青少年が自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切に健康的な人物として成長する過程に必要な「生きる力」を育てることを目指しています。10歳～15歳までの思春期の生徒を対象に、全課程を通して左記の9つの価値観を身に付けられるような構造になっています。「総合的な学習の時間」「道徳」「保健体育」などに適しており、文部科学省ホームページ(「総合的な学習の時間」応援団のページ)には推薦プログラムの一つとして掲載されています。

特別寄稿 四国の偉人 高知県

小男の”大きな光芒”

— 画人・河田小龍 —

高知りようまライオンズクラブ会員

谷

是

文化の志士

幕末、明治維新期にかけて、土佐からは膨大な人材が出た。一介の画人でありながら、日本の開国に大きく関与、海防意識を鼓吹し、二十歳の坂本龍馬に「世界の海援隊」の思想を植えつけたばかりでなく、多くの弟子達を、彼の創設した神戸の海軍操練所や亀山社中に送り込んだのが、河田小龍である。早くから勤王思想を堅持し、絵を通じて、当時の青年達に教育を施した。「気概の志士」とも言える。「志士」とは刀を持ち、走り廻った人だけを言うのではない。「芸術の志士」「学問の志士」もあるのではない。河田小龍などは、土佐では忘れてはならない「文化の志士」であったと私は言いたい。

「御水司」の家

文政七年（一八二四）十月二十五日、小龍は高知城東、浦戸坊片町（現高知市南はりまや町）で生まれた。当時、運河が菜園場から幡多倉橋を抜けて土佐橋の元で大きく曲って、播磨屋橋へと続いていたが、その家はその土佐橋のたもとにあった。父の土生玉助は『御座船小姓組切符二拾五石、五人扶持』という身分の低い武士であったが、御座船の船頭を取り締まる、直参の身分で、浦戸湾一帯の船頭の差配や御座船の手配をする重要な仕事、俗に「御水司」と世間から尊称されていた。玉助は文政四年父の跡目を継いで、文久二年十二月まで四十一年間、国主七人に仕えたわけ、従ってこの家には、船頭から船頭へと伝わった世界の情報や、土佐沖で洋船に出合っ

た水夫の生々した話などが、十分に集って来る家であった。西洋列強に侵略されている上海や呂宋などの話も、少年の頃から伝え聞ける家庭環境にあったということが言えよう。

長崎で学ぶ

幼児の頃から絵の才能が頭抜けていた小龍は、近隣の履屋町（現南はりまや町）の島本蘭溪の門にはいった。蘭溪は書画はもとより、文学、謡、仕舞なども得意とする当時一級の文化人で、その人望は広く知られている教育者であった。十三歳の時である。やがて十六歳となり、城東、新町の紅友社・岡本寧甫の門に入る。この寧甫こそ、陽明学を高知に伝えた大学者で、岩崎弥太郎、岩崎秋溟、清岡道之助、奥宮愷齋、森田梅圃など勤王思想家や文化人を多く育て、門人一〇〇〇人に及んだといわれる碩学であっ

Profile

谷 是

昭和14年7月生 土佐史談会副会長

高知大学文学部(現人文学部)文学科(国文学)卒業、高知新聞社勤務(37年間)

「高知県人名事典・新版」(高知新聞社刊)の元専従編集委員
高知大学元非常勤講師・高知市民図書館古書画鑑賞会元講師
高知市文化財保護審議会元委員・高知りようまライオンズクラブ会員

【編著】

●高知県の不思議事典(新人物往来社)

【共著】

●坂本龍馬全集 ●共同研究坂本龍馬 ●山内容堂のすべて
●土佐企業人物語—炎の軌跡 など



河田小龍生誕地 墨雲洞跡碑（高知市南はりまや町）



小龍河田自画像

嘉永三年（一八五〇）一月、南北合派を習得した小龍は一家をなした画人として帰国した。時に二十七歳であった。その二年後、同五年七月、中の浜万次郎らが米国から帰って来る。堺町の松尾屋に投宿した三人は、連日取り調べを受けたが、日本語を忘れていた彼

火花のような著作

た。しかし寧浦は小龍の画才を見抜き『学者はいくらでもいる。お前は抜きん出ている、その画才を延ばせ』と言ったという。
続いて小龍は上京『京狩野』こと九代目狩野永岳（山梁）に入門。二十三歳から三年間北宋画を学んだ。さらに当時武士の間では南宋画に人気があり、中林竹洞などに南画の米点法を習ったが、彼はそれに満足しなかった。本当の中国の『真景』を知っている画人に直接習いたいという思いに駆られ、長崎へ行くのである。当時『長崎南画』といわれて、清国の画人・紅稼圃に学んだ代表的画人・木下逸雲につく。小龍が長崎へ来て驚嘆したのは、絵ばかりではなかったであろう。長崎は真に国際都市、新しい西洋・中国の文化が、ここに集積していた。小龍は絵ばかりか蘭学まで学んだというから、食欲に西洋の知識を吸収したに違いない。

龍馬との約束

達に、英語を知らない吉田文治ら役人は、全く困難を極める。吉田東洋は小龍を呼び出し、その聞き書きを彼に依頼するのである。相方もも単語の理解から始めなければならぬから、昼間だけでは時間が足りない。小龍は万次郎を自宅に連れて来て、寝泊りを一緒にする許可を得て、坊片町の自宅の画室『墨雲洞』で日々発止の真剣な勉強を開始する。この二人がいかに難儀をしたか、想像しても余りあるが、熱い毎日の真摯な対話から生まれたものが『漂義紀略』で、画人小龍の絵がふんだんにはいった著作であった。万次郎の従順な性格、英明さと、小龍の画筆力や西洋文化に対する理解力の『火花のような産物』で、翌年山内容堂に上呈され、江戸の幕閣の間を廻し読みされ、アメリカ理解に大きく益したことは言うまでもない。いわば開国を迫ったのはペリー提督であったが、国内から開国の動機に大きな役割をしたのが、小龍のこの『聞き書き』であった。

龍馬との約束

安政元年（一八五四）八月小龍は藩命により砲術奉行・池田歙之助・指南役・田所左右次と共に図取り役として薩摩に赴くが、帰国したとたん、安政の大地震に見舞われた。そのため城下築屋敷の仮寓に移るが、そこに江戸でペリーの黒船艦隊を見て帰国したばかりの坂本龍馬が突然やって来る。二十歳の青年であった。『時勢について先生の見解を聞きたい』という龍馬に、相手は過激な青年のこと『俺は隠居で風流で世渡りをする画人だ。絵描きに意見などあるものか』と小龍は韜晦する。それでも君

の本心を語って欲しいと迫る龍馬である。当時は、攘夷一点ばりの時代で、開国などを口にすれば、過激な青年に何をされるかわからない時代であった。しかし、龍馬の真剣な態度に小龍は、よし、それでは本心を言ってみよう。君達のように開国だ、攘夷だと議論ばかりして何になるか。『岡』の上での議論より、早く一隻の外国船でも買って来て、同志を乗せ、海運業を興し、その利潤で規模を拡大して充実をはかる、それしかないのではないかと、言う。龍馬はそれに対して手を叩いて、その通りだと喜んだが、後日再訪して『船は金さえあれば買える。それに乗せる人はどうするか』と問う。それは上司の位の男では駄目だ、下層人民の中の若い青年に優秀な人材がたくさん居るからそれを訓練して育てたら良い、その人材なら、自分に任せろ、引き受けようと言明する。龍馬は『よし解った。人材は先生に任せろ』と言って別れていくのである。事実、神戸の操練所や亀山社中に土佐から駆け参じていくのは、小龍の弟子達で、長岡謙吉、近藤長次郎、新宮馬之助らを中心として、その友人関係の連中である。この二人の口約束は、八年後に見事に実現するわけであるが『藤陰略話』に記されている有名な一話である。

筆一本の生き様

小龍は維新後、高知藩士として小龍になったり、画塾『蘭菫社』（蓮の花が未だ花を開かないような者の集りの意）を開いたりして生活をする。明治二十一年（一八八八）、息子蘭太郎が京都で医師となったのを機に上京し、以来『琵琶湖疎水図絵』を京都府知事・北垣国道の依頼を受けて完成するなど、京都在住の画家として活躍した。明治三十一年（一八九八）十二月十九日、七十五歳で大往生するが、画域の広さは、真にプロというにふさわしく、狩野派、北宗画、南宗画、真景画、地図、設計図、庶民の好む絵馬、当時珍しい西洋画、挿し絵、木版画、人力車の飾り絵まで描いた。また膨大な弟子を養成し、絵で家族を養い、幕末動乱期に筆一本で生き続けた画人であった。勤皇家の故事を好んで描いたのも、絵を通して当時の青年達に、今日で言う社会教育を意図したものであったと考えられる。小龍・河田小龍の波瀾に満ちた軌跡は、幕末動乱期にあつて今も『大きな光芒』を放っていると考えるのは、私一人の感慨ではないのではあるまいか。



河田小龍画 村上義光画
(谷是蔵)

336-A地区会員現況

(入退会は累計・2006年9月30日現在)

R	Z	クラブ名	期首	入会	退会	9月末	R	Z	クラブ名	期首	入会	退会	9月末	R	Z	クラブ名	期首	入会	退会	9月末	
1	1	松山ホスト	49	1	1	49	3	4	ゾーン合計	243	6	6	243	6	3	伊予吉田	31	3	1	33	
		久万	29	1	2	28			高松玉藻	55	1	2	54			宇和島中央	33	1	0	34	
		松山東	49	0	2	47			高松栗林	66	0	0	66			南宇和	33	2	2	33	
		砥部	40	0	1	39			高松屋島	59	1	3	57			鬼北	42	1	1	42	
		松山つばき	51	0	0	51			高松紫雲	64	6	2	68			津島	34	1	1	34	
		松山城山	40	1	2	39			高松空港	35	1	1	35			ゾーン合計	216	8	6	218	
	ゾーン合計	258	3	8	253	高松北	25	0	1	24	リジョン合計	572	30	17	585						
	1	2	松山道後	55	6	1	60	4	1	ゾーン合計	304	9	9	304	7	1	徳島眉山	42	1	0	43
			伊予	49	3	0	52			リジョン合計	1017	23	29	1011			鳴門	58	1	2	57
			双海	9	1	0	10			高知	51	1	1	51			藍住	47	4	1	50
松山西			55	1	0	56	高知柏			66	0	0	66	板野			44	1	0	45	
松前			21	4	0	25	高知東			60	0	6	54	松茂徳島空港			31	2	1	32	
松山北			41	0	0	41	高知北			39	1	2	38	鳴門西			26	0	0	26	
松山湯築		39	0	2	37	高知桜	40	0	0	40	北島	55	5	1	59						
ゾーン合計		269	15	3	281	高知とさみずき	22	0	0	22	ゾーン合計	303	14	5	312						
3		3	北条	40	0	0	40	4	2	ゾーン合計	278	2	9	271	7	2	阿波池田	43	2	2	43
			松山中央	72	6	0	78			須崎	58	1	0	59			脇	38	2	0	40
	松山南		44	2	2	44	土佐			48	1	0	49	三加茂			25	2	3	24	
	東温		37	0	0	37	伊野			33	0	1	32	半田			29	1	1	29	
	松山金亀		52	1	0	53	佐川越知			30	1	0	31	ゾーン合計			135	7	6	136	
	松山白鷺		60	1	1	60	中土佐			24	2	2	24	徳島西			41	1	3	39	
	ゾーン合計	305	10	3	312	ゾーン合計	193	5	3	195	鴨島	38	3	0	41						
	リジョン合計	832	28	14	846	四万十	50	0	1	49	阿波	48	2	3	47						
	2	1	新居浜	65	1	2	64	3	3	土佐清水	53	1	0	54	7	3	徳島国府	27	2	0	29
			新居浜中央	43	1	0	44			宿毛	37	0	1	36			神山	29	0	0	29
新居浜別子			37	0	0	37	窪川			30	1	4	27	徳島藍			32	2	0	34	
新居浜ひうち			49	1	0	50	大方			32	1	1	32	山川高越			25	0	1	24	
ゾーン合計			194	3	2	195	大正			16	0	2	14	ゾーン合計			240	10	7	243	
今治			62	2	1	63	ゾーン合計			218	3	9	212	リジョン合計			678	31	18	691	
今治中央		65	0	3	62	リジョン合計	689	10	21	678	高知鷹城	59	3	2	60						
2		2	今治東	64	0	1	63	4	1	徳島	36	0	0	36	8	1	室戸	28	7	0	35
			今治くるしま	48	0	0	48			小松島	28	0	0	28			高知鏡川	59	1	3	57
			今治サーチング	26	1	1	26			徳島南	39	3	0	42			高知南	35	2	1	36
	ゾーン合計		265	3	6	262	徳島北			19	0	0	19	高知よさこい			39	1	1	39	
	伊予三島		48	0	0	48	阿波勝浦			37	1	0	38	土佐国府			34	1	0	35	
	川之江		61	1	1	61	徳島すだち			50	0	2	48	ゾーン合計			254	15	7	262	
	3	3	伊予土居	38	4	0	42	5	2	徳島中央	25	0	1	24	8	2	高知黒潮	71	1	1	71
			伊予三島法皇	37	5	3	39			石井	24	2	1	25			高知桂	58	1	2	57
			川之江中央	31	3	0	34			徳島城山	46	0	1	45			高知中央	47	2	1	48
			ゾーン合計	215	13	4	224			上板	48	1	5	44			高知安芸	34	1	1	34
西条			49	2	0	51	徳島吉野川			35	0	1	34	高知りょうま			40	0	0	40	
東予			45	0	0	45	土成			36	0	0	36	ゾーン合計			250	5	5	250	
3		4	伊予小松	20	0	0	20	5	2	阿南	69	3	3	69	8	3	土佐山田	28	0	0	28
			西条石鎚	55	0	0	55			日和佐	31	1	0	32			土佐本山	21	0	1	20
			ゾーン合計	169	2	0	171			徳島東	42	2	1	43			土佐国	35	0	0	35
			高松	54	1	2	53			徳島マリンピア	50	2	2	50			土佐香南	47	0	3	44
	小豆島		47	0	1	46	阿南リパティ			35	2	1	36	大豊			24	0	0	24	
	小豆島東		37	0	1	36	ゾーン合計			227	10	7	230	ゾーン合計			155	0	4	151	
	3	1	高松葵	36	0	0	36	3	3	リジョン合計	650	17	18	649	9	1	丸亀	100	1	0	101
			高松南	37	0	1	36			大洲	52	2	2	52			坂出	47	0	1	46
			高松愛	21	0	0	21			宇和	29	1	0	30			坂出白峰	52	1	0	53
			ゾーン合計	232	1	5	228			伊予長浜	19	1	1	19			綾歌郡	33	0	0	33
高松東			72	1	0	73	内子			38	1	2	37	丸亀京極			63	3	2	64	
高松西			30	1	3	28	野村			23	7	0	30	ゾーン合計			295	5	3	297	
3		2	直島	30	3	3	30	6	1	ゾーン合計	161	12	5	168	9	2	観音寺	46	0	4	42
			八栗	33	0	0	33			八幡浜	47	0	4	43			善通寺	49	1	1	49
			高松源平	47	2	1	48			三瓶	17	3	1	19			多度津	38	0	0	38
			高松中央	26	0	2	24			伊方	41	6	0	47			三豊	60	5	0	65
	ゾーン合計		238	7	9	236	保内			34	0	0	34	こんびら			44	0	0	44	
	大川郡		41	3	0	44	八幡浜みなと			56	1	1	56	観音寺中央			28	0	0	28	
	3	3	長尾	71	0	3	68	3	3	ゾーン合計	195	10	6	199	リジョン合計	265	6	5	266		
			志度	59	2	1	60			宇和島	43	0	1	42	ゾーン合計	560	11	8	563		
			三木さぬき	42	1	0	43														
			高松グリーン	30	0	2	28														
総 合 計																	6500	191	153	6538	

謹んでお悔やみ申し上げます

物故会員

①氏名・享年
②L C名

③入会年月日
④没年月日



①木藤 富裕 56歳
②7R-2Z阿波池田LC
③昭和56年3月5日
④平成18年5月4日



①清遠 豊 77歳
②8R-3Z土佐香南LC
③平成2年1月9日
④平成18年5月13日



①葭谷 昭 78歳
②3R-1Z小豆島LC
③平成4年10月22日
④平成18年5月15日



①近森 順一 84歳
②8R-3Z土佐香南LC
③昭和53年2月26日
④平成18年5月17日



①大石 俊男 83歳
②6R-2Z八幡浜LC
③昭和33年10月
④平成18年5月31日



①小島 久平 55歳
②2R-2Z今治くしまLC
③平成9年2月7日
④平成18年6月6日



①岡久 道雄 71歳
②4R-1Z高知柏LC
③平成6年3月8日
④平成18年6月10日



①佐田 寿 77歳
②4R-3Z四万十LC
③昭和38年9月24日
④平成18年6月13日



①山本 國雄 71歳
②1R-3Z松山白鷺LC
③平成4年3月
④平成18年6月18日



①金村 工 64歳
②5R-3Z徳島東LC
③平成3年3月7日
④平成18年7月6日



①高橋 吉昭 59歳
②1R-1Z松山東LC
③平成17年12月6日
④平成18年7月23日



①近藤 毅 80歳
②2R-1Z新居浜LC
③昭和37年4月
④平成18年7月26日



①岩川 圭一 86歳
②4R-1Z高知LC
③昭和42年7月
④平成18年7月26日



①二川 一男 83歳
②3R-4Z高松玉藻LC
③昭和62年3月19日
④平成18年8月4日



①菊池 貞博 71歳
②6R-2Z八幡浜LC
③昭和50年10月22日
④平成18年8月10日



①山田 育弘 52歳
②5R-3Z阿南LC
③昭和61年8月
④平成18年9月12日



①藤尾 孝治 90歳
②3R-1Z小豆島東LC
③昭和44年5月25日
④平成18年9月13日



①丹下 孝三 76歳
②1R-1Z松山ホストLC
③昭和46年10月
④平成18年9月20日



①森 晃石 70歳
②4R-3Z四万十LC
③平成6年2月1日
④平成18年9月22日



2006年9月30日現在

編・集・後・記

▽各クラブの活動も軌道にのり、「友情の輪を広げ共に楽しい奉仕」のスローガンが日々実践されていることでしょう。ガバナー公式訪問を受け、ゾーンレベル委員会・地区ガバナー諮問委員会などでは、クラブの共通課題や問題点・課題など、具体的な運営改善に資することが得られたのではないのでしょうか。

▽本号では、これに加え、YE特集を組み入れました。ライオンズらしい活動のひとつとして、国際交流・青少年交換のもつ意義のすばらしさと成果、それを支えるスタッフの奮闘ぶりに触れてみて下さい。

▽表紙写真・「四国の偉人」シリーズは高知にリレーしました。
ライオンズ会員として、ひとつひとつの活動が人生を楽しく豊かにする契機となるよう、地区誌へのご支援もお願いいたします。(投稿歓迎)

地区誌編集委員会
委員一同



「見える」ことの喜び、
いつまでも。



CSF II

Campaign Sight First II

視力ファーストII キャンペーン

2005~2008



2006~2007年
ライオンズクラブ国際協会
336-A地区 八幡浜キャビネット事務局



〒796-0064 愛媛県八幡浜市379-5 野本ビル3F
TEL (0894) 24-1033 FAX (0894) 22-3276
E-mail: ehime16@lc336a.gr.jp